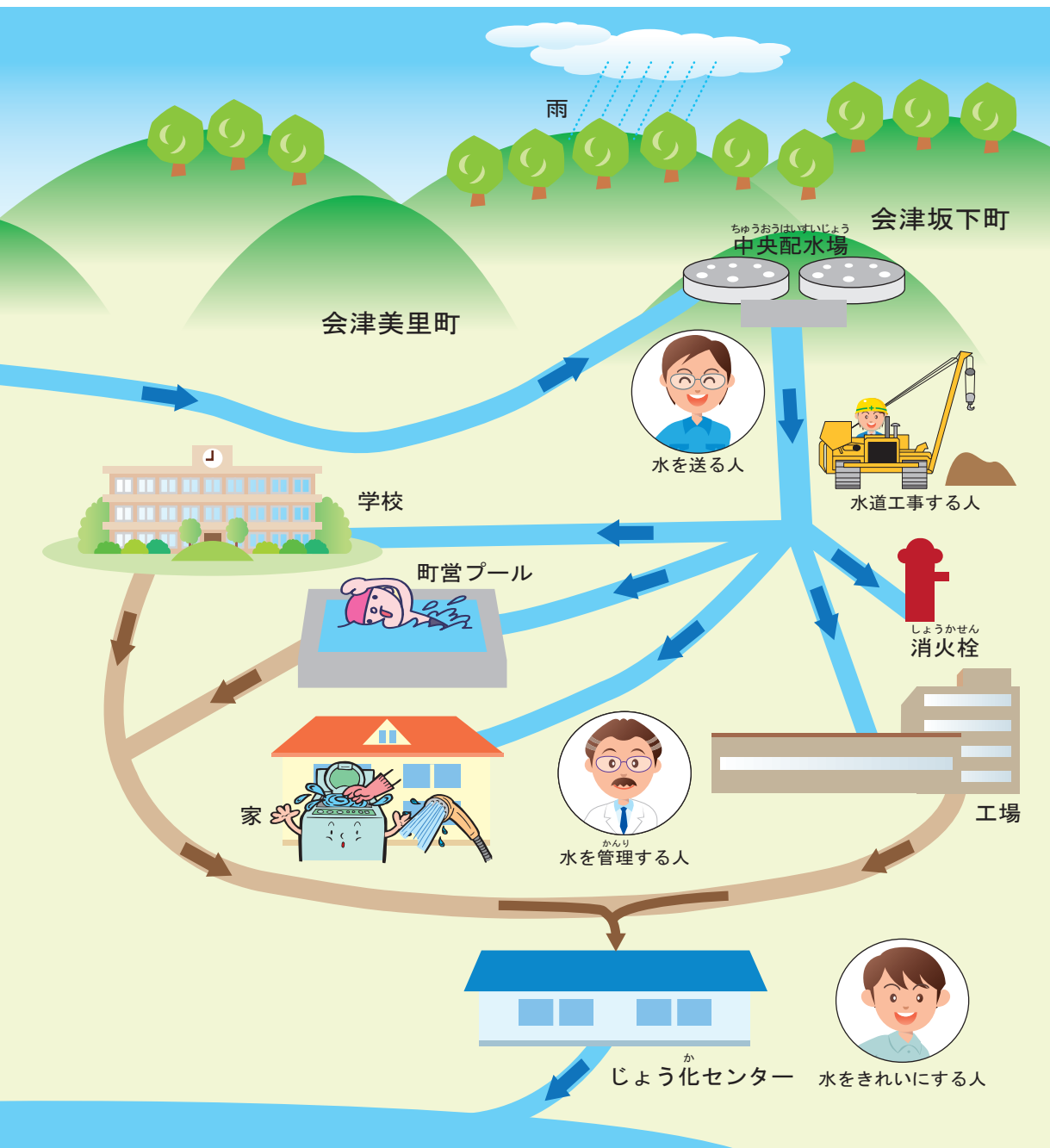


4. 住みよいくらしをつくる

○ごみと水について考えよう





(1) 上水道と下水道

① 上水道

地下水が飲み水として使いにくかったため、わたしたちの町の水道は

わたしたちが生活するうえで、水はなくてはならないものです。上水道とは、わたしたちが生活に使うための水の通り道のことで、ふつうは水道とよんでいます。



今から約90年前に、県内では郡山市について2番目にできました。

わたしたちが使う水は、どこから送られてくるのかな？



みなみあいづ
南会津の山々にふった
雨は、おおかわ
大川ダムにためら
あいづみさと
れ会津美里町にあるまこし
馬越



大川ダム

じょう水場できれいにされます。

きれいになった水は地面の下にうめられた太い水道管すいどうかんを通して、会津坂下町に送られます。町では計画的に水道けいかくてきを広げる努力どりょくを続け、今では、ほとんどの地区に水道がひかれるようになりました。



馬越じょう水場

じょう水場のおじさんのお話



いつでも安心して水がのめるように、昼も夜も夏も冬も、24時間交代しながら水を作り続けています。ですから、川にごみなどをすてたり、川の水をよごしたりしないでほしいと思っています。

馬越^{まこし}じょう水場^{すいじょう}で作られた水は、
 若宮^{わかみや}地区の中央配水場^{ちゅうおうはいすいじょう}におくられます。
 ここは、役場のある所より約70メートル高く、その高さを利用して工場や家庭へ水を送り出します。

中央配水場



塔寺^{とうてら}ポンプ場



気多宮^{けたのみや}配水場



八幡^{やはた}地区の一部

高寺^{たかてら}配水場



高寺地区

中村減圧場
いきおいを弱くするしせつ



坂下地区と、若宮、広瀬、川西地区の一部

金上地区と若宮、
広瀬、川西地区の一部

町役場の建設課^{けんせつか}の上下水道班^{じょうげすいどうはん}の人々は、中央配水場にためられた水が安全で、かくじつに町の人々に送られるよういろいろな仕事をしています。

いつでも安心して水が飲めるように中央配水場などのしせつ^{てんけん}を点検、しゅう理をしたり、水が



けんさをしているところ

よごれていないかばいきんなどはないかなどのけんさや消毒しょうどくもしています。

水はお金をかけて作られ守られています。そのため、使った分だけお金をはらわなければなりません。水の使用量しょうりょうを計算しお金を集める仕事もあります。



水道管を交かんしているところ

また、町の水道管すいどうかんは全部で約150キロメートルあり、水道管の中には古くなって水もれをおこすものもあるので、計画的けいかくてきに交かんする仕事もしています。

②下水道

下水や雨水あまみずがそのまま川に流れると、こう水になったり、川がよごれ魚などがすめなくなったり、人間の病気げんいんの原因にもなったりします。

下水とは、トイレやお風呂や台所など家庭生活上で使い終わって出されたよごれた水や、工場から出されるよごれた水、雨水などです。下水道とは、これらの水の通り道ということになります。



町では次の5つのことを目標もくひょうに考え、下水道をととのえていこうとしています。

1. 生活かんきょうをよくする

トイレが水洗化されるだけでなく、汚水おすいをすぐにきれいにするため、せいけつでよい生活ができるようにします。



2. しん水^がひ害^{がい}をふせぐ

雨水をすぐに流して家に水が入るのをふせぎ、私たちの生命やざい^{ざい}産^{さん}を守ります。



3. 川^{ぬま}・湖^{すいしつ}・沼や海の水質をたもつ

川や海^{はい}のよごれのもとになる生活排水などをきれいにします。



4. 下水道^{ゆうこうりよう}しげんおよびせつの有効利用

下水道がもっているしげん（しよりした水やどろなど）をいかして使うことを考えています。



5. 水をくりかえし使うサイクルをつくる

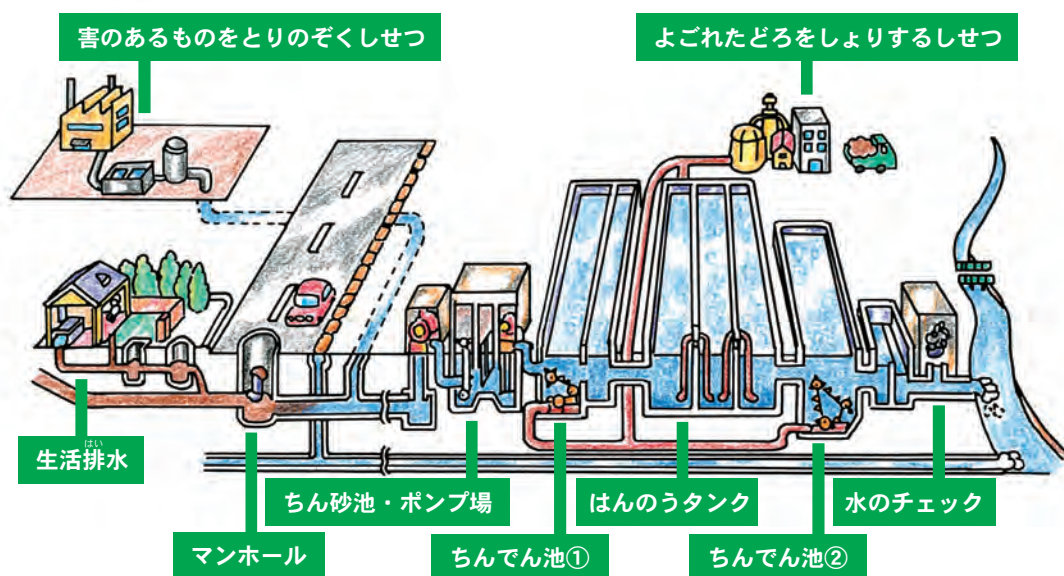
排水^{はい}を集めてきれいにしよりして流したり、しより水^{すいせん}を水洗^{りよう}トイレに利用するなど、水をくりかえし使っていくようなサイクルをつくることができるようにします。



じょう化センター ～下水をきれいにするしくみ～

家庭や工場からの排水^{はい}は、下水道を^{はい}通^{はい}ってじょう化センターへと送られ、川に流しても安心できる水になるまできれいにします。

また、町では「合併^{がっぺい}処理^{しよ}浄化^{じよう}槽^{かそう}」という、家庭で下水をしよりできるせつ^{せつ}び^びをつけるためほじよ^{きん}金^{きん}を出したりしています。



水をきれいにするしくみ

- ① ちん^さ池・ポンプ場
よごれた水をゆるやかに流し、大きなゴミや砂^{すな}を取りのぞき、ポンプでちんでん池に送ります。
- ② ちんでん池^ち①
しずみやすいよごれを取りのぞきます。
- ③ はんのうタンク
び生物をふくんだどろに空気を送り、よごれを分かいます。
- ④ ちんでん池②
しずみやすくなったよごれをもう一度しずめて、きれいな水と分けます。あまったどろは、しよりするしせつに送られます。
- ⑤ 水のチェック
川に流す前に、水^{すい}しつをけんさします。

(2)ごみのしゅりと再利用^{さいりょう}

①ごみを集める

わたしたちが生活していく中で、たくさんのごみが出てきます。紙などのもえるごみ、金属^{きんぞく}やガラスなどのもえないごみ、ほかにも、生ごみやプラスチックなど、ごみの種類^{しゅるい}はさまざまです。

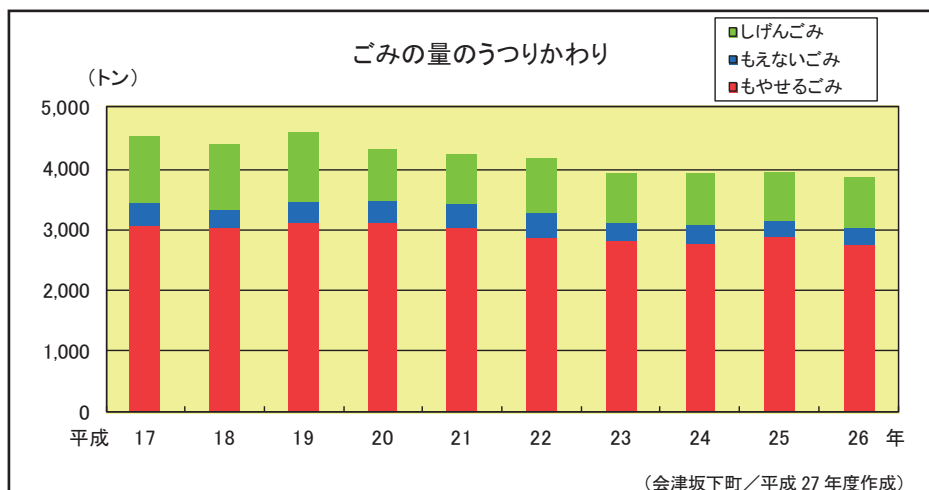
たくさん出てくるごみは、家庭ではしゅりする事ができません。そこで、町ではきまった曜日に、ごみをしゅう集車で集めています。町の人たちは朝8時30分までに、ごみの分け方のルールにそって、ごみステーションなどの決められた場所に出すようになっていきます。



ごみステーション



ごみしゅう集の様子



②ごみをもやす

集められたごみは、あいづわかまつ こうざしまち 会津若松市神指町にある会津若松地方広域市町あいづわかまつちほうこういきしちょう 村圏整備組合のごみしよりしせつそんけんせいびくみあい に運ばれます。もえるごみは、このしせつでもやされます。しせつはたらの人は、8時間ずつ3交代で働き、しょう 焼きゃくろでは、休みなくごみがもやされています。

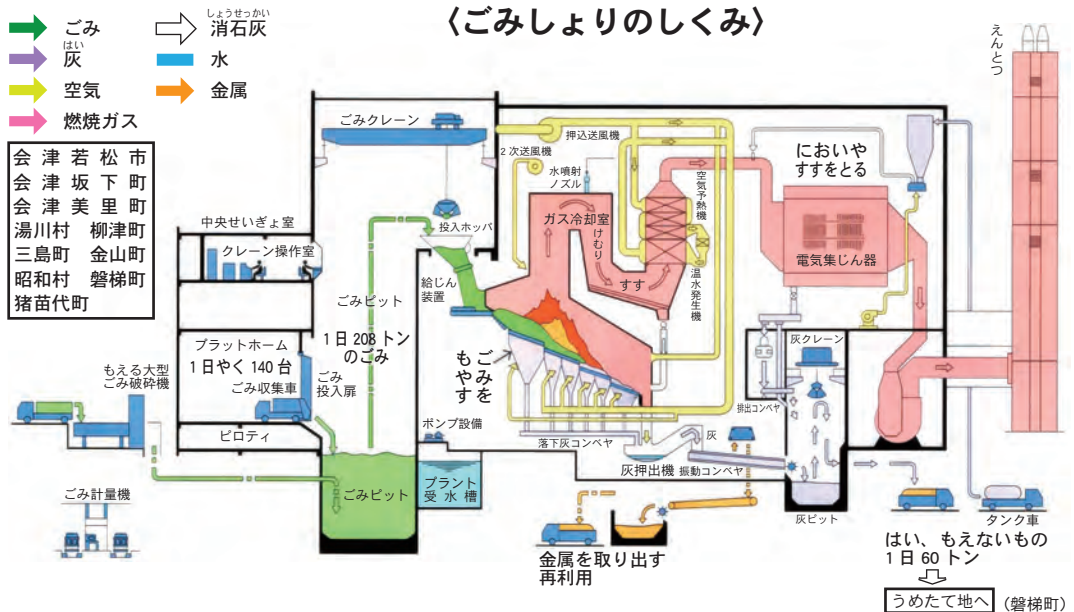
ここでは1日に、ごみしゅう集車 100 台以上のごみをしよりすることができ、いやなにおいやよごれたけむりを外に出さないようなせつびがととのえられています。



ごみしよりしせつ



ごみをピットに投入している車

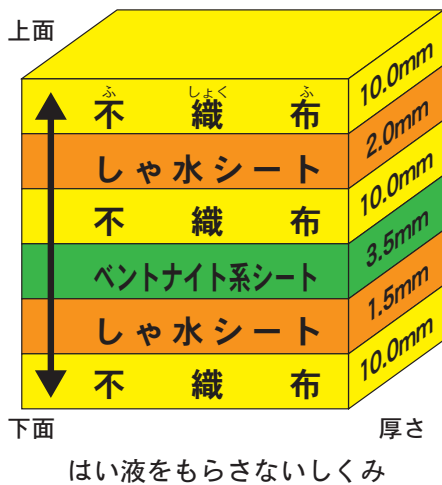


③最終しょぶん場(磐梯町)

ごみしよりしせつでは、われたガラスや使えなくなったガラスや陶器などのもえないごみは機械きかいでくたいて、もえるごみの灰はいといっしょに磐梯町の最終しょぶん場に運ばれうめ立てられます。

最終しょぶん場は、住宅地じゅうたくちからはなれた山を切りくずしてつくられました。観光地かんこうちでもある磐梯町ばんだいの自然しぜんを守るために最新技術さいしんぎじゆつを使って安全管理あんぜんかんりをしています。

しょぶん場のうめ立て地では、はい液えきがもれないようにし、はい液は集められてきれいな水にしてから外に流しています。

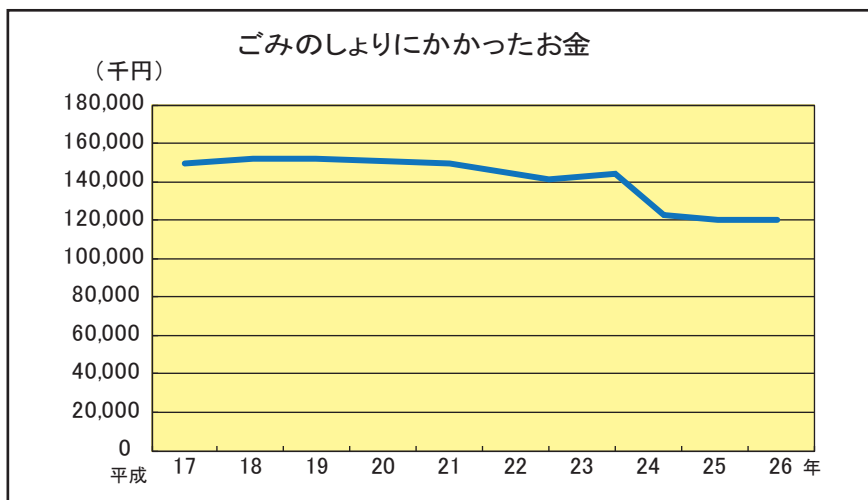


最終しょぶん場



うめ立ての様子

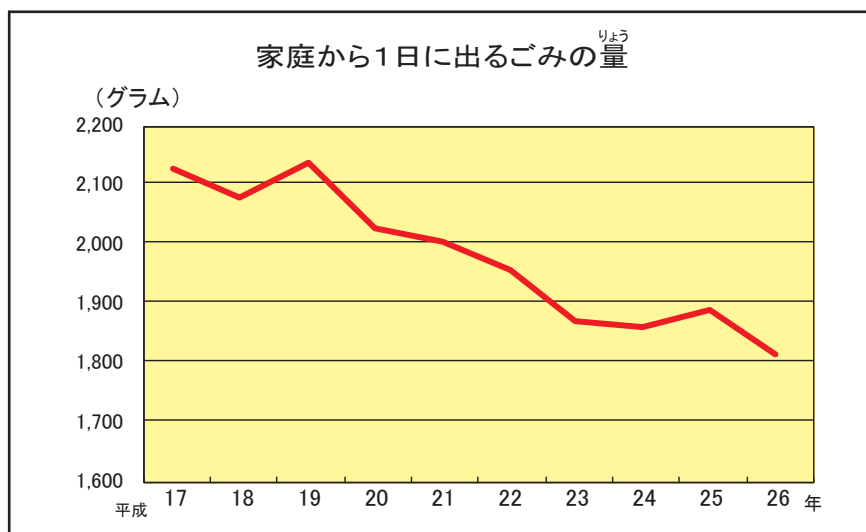
④生まれかわるごみ



(会津坂下町/平成27年度作成)



ごみのしよりにかかったお金は、グラフを見ると少しずつへってきています。そのわけはなぜでしょうか。



(会津坂下町/平成27年度作成)

上のグラフは、家庭から1日に出るごみの量のグラフです。ここからどんなことがわかるでしょう。



ごみのしよりにはお金がかかります。会津坂下町では、平成7年度からごみの分別しゅう集をはじめました。生ごみをひりょうに変えるような容器やせつびを持ちたい人にはほじょ金を出したり、平成19年度からは、有料のごみぶくろを指定したりして「ごみをへらし」「リサイクルする」ことをよびかけてきました。

その結果、前の2つのグラフでわかるように、ごみしよりにかかるお金や、ごみの量は少しずつへり、ごみは分けられてしげんとして生まれかわり、リサイクルされています。



かいしゅうされたペットボトル



つぶして整理されたペットボトル

しげんごみは、どのようにしよりされるのかな。



⑤しげんごみのゆくえ

おもなしげんごみは、古紙、かん、びん、牛乳パック、ペットボトル、プラスチック製容器包装などです。しげんごみは、工場でべつのせい品に生まれかわります。マナーを守ってきちんと分けてごみを出すことが大切です。

紙

ダンボール・新聞・ざっしは
べつべつに。



クリップ類や
テープ類などは
きちんと取りの
ぞいてね。

びん

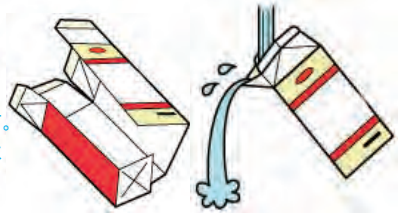
リサイクルできるもの
色べつに集めます。



王かん・キャップ
などを取って
中をゆすいでね。

牛乳パック

水でゆすいで、切り開いて
よくかわかしてから出します。
中が茶色や銀色の紙パックは
出してはいけません。



かん

なかみをカラにして洗って
からスチールとアルミとに
分けます。



軽く
つぶしてね。

ペットボトル

ふたととり、ラベルを
はがし、なかみをよく
洗いましょう。



足で
つぶしてね。



しげんごみ回収ボックス

しげんごみには、リサイクルマークがついています。



身のまわりの物には、どんなリサイクルマー
クがついているかな？さがしてみよう。



⑥わたしたちの生活とリサイクル

わたしたちの身の回りには便利べんりなものがたくさんあり、お店に行けばいつでもものが手に入ります。その結果けっか、古いものはすてられ、出てくるごみの量りょうもふえてしまいます。

前のページに書かれているように、出されたごみは、もやしたりくだいたりしてからうめ立てされていますが、このままだと約20億円やく おくえんをかけてつくった最終さいしゅうしょぶん場は、やがていっぱいになり、新しいうめ立て地を作らなければいけなくなります。

一人ひとりが、リサイクルの大切さを知って、リサイクルをすすめ、ごみをへらすことに協力きょうりやくしていくことがもとめられます。



ごみをへらすために、わたしたちはどのようなことができるのか考えてみましょう。



5.人々のくらしをゆたかにする

(1)町にあるいろいろなしせつ

町に住んでいる人たちみんなのためのしせつには、役場・公民館・
体育館・五浪美術記念館・学校給食センター・健康管理センター・野
球場・プール・温泉・保育所・警察署・消防署といったものがあります。



会津坂下町役場



会津坂下町中央公民館



会津坂下町民体育館



五浪美術記念館



学校給食センター



けんこうかんり
会津坂下町健康管理センター



つるぬまきゅうじょう
ばんげひがし公園鶴沼球場



ばんげひがし公園町民プール



しおり
糸桜里の湯ばんげ



ほいくしょ
ばんげ保育所



あいづばんげけいさつしょ
会津坂下警察署



あいづばんげしょうぼうしょ
会津坂下消防署

(2)人々のくらしとコミュニティセンター

わたしたちの町には、中央公民館をはじめ、坂下・若宮・金上・
広瀬・川西・八幡・高寺のそれぞれの地いきにコミュニティセンター
がおかれ、その地いきの人たちの生活をゆたかにするため、さまざま
な活動に取り組んでいます。

各公民館の人たちは、地いきの人たちの希望や要望を取り入れなが
ら、地いきのくらしがいっそうゆたかになるように考えながら、計画
を立てています。

中央公民館



子ども料理教室
りょうり



青少年ボランティア「赤い羽根募金」
せいしょうねん ぼきん

坂下コミュニティセンター



お寺に泊まる
てら と



将棋教室
しょうぎ

若宮コミュニティセンター



若宮ガキ大将教室「お菓子づくり」

広瀬コミュニティセンター



くらしの講座「キムチづくり教室」

八幡コミュニティセンター



クリスマス会

金上コミュニティセンター



ばんげちびっこリレーマラソン大会

川西コミュニティセンター



宇内地区を歩こう

高寺コミュニティセンター



たばねまつどうげ
東松峠ウォーキング大会

(3) 公園と人々の暮らし

会津坂下町には、^{いなりづか}稲荷塚公園・中央公園・ばんげひがし公園など大小あわせてたくさんの公園があります。町の人たちは、この公園をいこいの場として活用しています。

公園では、^{ろうじん}老人クラブや^{ふじんかい}婦人会の人たちが草むしりや花のなえを植えたりして、町を花いっぱいにしようと活動しています。

コミュニティセンターの人たちも花の種^{たね}やなえを配り、力を合わせて花と緑の町づくりをしています。



花のなえ植え



みんなのための公園を、たくさんの人たちがきれいにしているんだね。

町の人たちは、公園をきれいにしようと、小学生や中学生・高校生、また大人の人たちが、朝早くせいそう活動なども

行っています。

空きかん・空きびん・紙くずなどのごみひろいを行い、公園をきれいにしています。

公園をみんなできれいに使いましょう。



子どもたちのせいそうのようす

6.町のうつりかわり

(1)かわってきた人々の暮らし



これらの道具は何をするための道具かな？



石うす



せんばこき

①道具から昔を調べる

会津坂下町には、昔使っていたいろいろな道具が^{のこ}残されています。これらを見ると、昔の人々は工夫を^{くふう}こらして道具を使っていたことがわかります。また、昔の町のくらしぶりも知ることができます。

ア.生活の中で使われた道具

昔の生活に使った道具もいろいろなものが残っています。



わらぐつ

いなわらではきものを作りました。



みの

雨がふった時に使いました。ほかに荷物を背負うのに使うみのもあります。



あんか

すみび炭火を入れてふとんをかけて手足をあたためます。



かんじき

雪の上を歩く時に雪にふみ込んだり、すべったりしないように、くつの下にはきました。



たかばた

はたお機織りにつかいました。



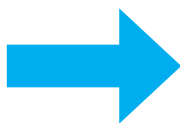
たばさみ

牛馬のせなかに置いて人や荷を乗せました。

いなさく
イ.稲作に使った道具



今は、コンバインがあれば、いねかりからだっこくがかんたんにできますが、昔は、どんな道具を使っていたのだろうか？



左の写真は回転だっこく機によるだっこくです。どのように使うか調べてみよう。



三本ぐわ



まぐわ



田ころばし

まず、三本ぐわで田の土をほりおこし、次にまぐわでさらに土を細かくしました。まぐわは、田に水を入れてから代かきしろにも使いました。代かきでは、「はなどり」という、馬の口に竹ざおをつけて歩かせる仕事があり、おもに子どもが行いました。

代かきの後、田の表面ひょうめんを平らにするためにえんぶりを使い、田植

えがしやすいようにしました。田がぬかるんで馬が入れなかったり、田がせまかったりした場合は田ころばしを使いました。

このように昔の人々は、^{きかい}機械を使わず道具だけで仕事を行ったので、今よりも多くの時間をかけて^{はたら}働いていました。子どもたちも田や畑の仕事を行う、大切な働き手でした。

<米をしゅうかくするときに使った道具>

いねかりをした後、いねの穂を^ほぼうにかけてよくかんそうさせ、せんばこきでいねこきをします。次にとうみでごみやわらくずを取ってもみにしました。もみはするすでひいて^{げんまい}玄米にし、ばったりなどで米つきをして玄米を^{はくまい}白米にしてから^{まんごく}万石でふるいかけ、われた米などを取り除きました。



とうみ



まんごく
万石



と
すするす



私たちの身のまわりにある、古い道具をさがしてみましよう!!

② 暮らしのうつりかわり



国指定重要文化財 じゅうようぶんかざい 旧五十嵐家住宅 きゅういがらしけじゅうたく

この建物たてもものは今から約290年前の江戸時代えどに建てられました。会津あいづ地方の当時の農家の様子がよくわかります。

中は、どんなつくりになっていて、そこで、どのような生活を送っていたかを調べてみましょう。





ながしば



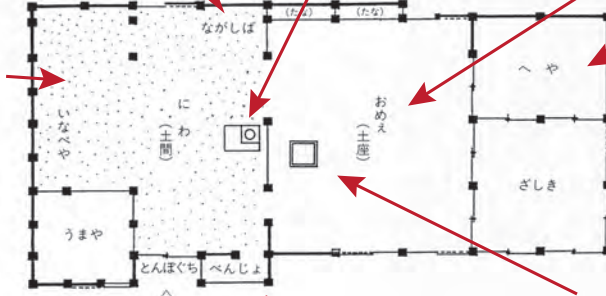
かまど



おめえ(土座)



お農具置き場



へや



うまや とんぼぐち



べんじょ
便所・ふろば



iyorori

家の中に入るとすぐ土間になっており、入口のすぐわきに馬小屋が
 あって、馬は家の中でかわれていました。土間のすみには、農具がお
 かれており、こわれたものはしゅうりして大切に使われていました。
 ふろばと便所は、となり合わせで作られていました。また、奥の方には、
 来客用のざしきがあり、それ以外はむしろをしいた簡単なつくり
 でした。土間に面したところすべてが仕事場になるように作られてお
 り、農業を第一と考えた家でした。

③昔の食事

昔は、どんなものを
食べていたのかな？



ア.毎日の食事

畑を中心とする山間^{さんかん}地方では、あわ・そば・麦などのざっこくを主に食べていました。一方、稲作^{いなさく}を中心とする平地では、ざっこくとともに、米を多く食べることができました。

会津^{あいづ}の郷土料理^{きょうどりょうり}として、ざくざくにやいなごのつくだになどがあります。また、ぼうたらや干したにしん^{ほぞん}など海の魚で、長く保存できる乾物にしたものをとりよせて、食べていました。



ざくざくに



にしんのさんしょうづけ



ぼうたらに



いなごのつくだに

イ.お祝^{いわ}いの日の食事

お祝いの日の正式な主な食べものはもちでした。正月をはじめ、
節句^{せつく}やお彼岸^{ひがん}などにつくられてふるまわれました。

また、そばもお祝いのときにふるまわれていました。



おそなえもち



そばうち

④昔の着物

どんな服そうをして
いたのかな？



ア.ふだんの服そう

ふだん家の中で着る着物きものは、“へいぜいきもの”“へいぜぎ”などとよばれ、それらは、主にもめんでできていました。

仕事の時ときは、“のらぎ”“かせぎじばん”などとよばれていました。



じばんとさっぱかま



のらぎ

イ.お祝いの服そう

婚礼こんれいや祝い事などに着る着物を“いいきもの”とよんでいました。



晴れ着



かくそで・かくおび

(2) 町に残る古いもの^{のこ}

どんなものが残っているのかな？



① 大昔のもの^{おおむかし}

住居^{じゅうきょ}の跡^{あと}や生活につかった道具などの発見から、約1万5000年前ごろには、会津坂下町に人が住んでいたと考えられています。そのころは、まだ、米づくりが行われず、主に野山の動物や川の魚をとったり、木の実や山菜^{さんさい}などを採^とったりして、それを食料^{しょくりょう}にしていたと考えられています。

住居跡^{じゅうきょあと}やそこからでてきた土器^{どき}や石器^{せっき}



住居跡 (きたかわまえいせき (北川前遺跡))



複式炉 (北川前遺跡)



縄文土器 (ぬすつどざわいせき (盗人沢遺跡出土))



石器 (北川前遺跡出土)

じょうもん
縄文時代のむらの様子





(絵：やないふみえ)

② 古墳こふんがつくられた時代のもの

米づくりが進むにつれ、むらの人の中から、むらの全体をまとめるごうぞく豪族があらわれました。そして、さらに、むら同士の争いも起こるようになり、むらとむらが大きくまとまり、小さいくになができました。その豪族のお墓はかとして古墳こふんがあちこちにつくられました。会津坂下町にも有力なごうぞく豪族の古墳こふんがいくつか見られます。



かめがもり ちんじゅもりこふん
亀ヶ森・鎮守森古墳



きねがもりこふん
杵ガ森古墳

このような古墳からは、はにわや銅鏡どうきょうなどがたくさん出てきています。
 <古墳こふんからの出土品しゅつとひんの数々>



はにわ きょうづかこふん
(経塚古墳出土)



銅鏡 もりきた ごふん
(森北1号墳出土)



どき
土器 (杵ガ森古墳出土)



土器 (杵ガ森古墳出土)

③ ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

今から1200年ぐらい前の平安時代になると、磐梯山のふもと
(現在の磐梯町)に、徳一という僧によって慧日寺が開かれました。

そして、そこから仏教が会津に広められました。会津坂下町でも
上宇内の調合寺や塔寺の恵隆寺などが開かれました。



しせきえにちじあと ふくげんこんどう
史跡慧日寺跡 復元金堂
(写真提供：磐梯町教育委員会)



木造薬師如来坐像 (元調合寺本尊)



もくぞうとくいつぼさつざぞう
木造徳一菩薩坐像
(写真提供：湯川村教育委員会)



たちきかんのんどう えりゅうじ
(立木観音堂) 恵隆寺

平安時代は、慧日寺が会津四郡 (会津・耶麻・河沼・大沼) を支配
していました。しかし、一方で、会津の豪族たちも活やくしてしまし
た。昔から、会津は、となりの越後の国 (現在の新潟県) とも深い関
係がありました。当時の越後の有力者である城氏が、会津にせめてき

て、あちこちに城を築いています。
城氏は、会津坂下町には、陣が峯城
(川西地区) や雲雀が城 (高寺地区)
などを築いたといわれています。

豪族たちは、農業をしながらも
戦いにそなえて武芸にはげむよう
になりました。こうして会津にも
武士が誕生しました。そして、源
氏や平氏の勢力も会津にのびてき
ました。八幡地区の塔寺にある
心清水八幡神社は、源氏と関係し
ていたと伝えられています。



雲雀が城跡 (舟渡城)



陣が峯城跡

④武士の力が強くなった時代

1500年代の戦国時代は、会津
の大部分は、葦名氏がおさめてい
ました。会津坂下町辺りは、家来の
金上氏と栗村氏がおさめていまし
た。特に、金上氏は、葦名氏に越後
のそなえを命じられていました。



金上氏の館跡

⑤町のきそができはじめた時代

1600年代のはじめ、江戸時代に入ると、会津の国と越後の国を結ぶ越後街道が整備され、人や物の行き来がふえて、街道沿いの坂下地区には多くの人々が住み、町並みができてきました。それと同時に月に6回、市（店）を開かれるようになり、商業の町になるきそができあがりました。



当時の様子を残す街並み
(昭和46年頃の八幡地区)

⑥武士の時代の終わりと会津坂下町

武士の時代が終わろうとしていた江戸時代末期、それまで武士たちを束ねてきた江戸幕府とそれをたおそうとする天皇を中心とする軍との戦いがいろいろなところでおこりました。これを戊辰戦争といい、会津は、幕府の側につき、中心的な役割をはたしました。その戦いの中で有名になっているのが白虎隊ですが、そのほかにも、中野竹子が娘子軍をひきいて戦いました。現在、町内の法界寺にその墓があり、竹子が使用したとされるなぎなたが残されています。



竹子が使用したと伝えられるなぎなた

(3)残したいもの大切なもの

この仏像は、なんという仏像で、どこにあるのかな？



これは、やはた どうでら えりゅうじ八幡地区塔寺の恵隆寺にある木造千手観音立像です。かまくら鎌倉時代に建てられました。

せんじゅかんのん千手観音は一本の立木でつくられ、高さ8.5メートルもあります。



その他、会津坂下町には、残したい大切なものがたくさんあります。調べてみましょう。



けんぽんちゃくしよくじゅうろくぜんしんぞう ひろせ
絹本著色十六善神像（広瀬地区）

じゅうようぶんかざい
県指定重要文化財

だいほんにやきょう
※十六善神は、大般若経とそれをと
なえる人を守る神です。



もくぞうにじゅうはちぶしゅうりゅうぞう やはた
木造二十八部衆立像（八幡地区）

県指定重要文化財

せんじゅかんのん きょうじ
※千手観音につきしたがう協侍で、
病気・災害からの守り神です。

うない もくぞうやくしによらいざぞう かわにし じゅうようぶんかざい
宇内の木造薬師如来坐像(川西地区) 国指定重要文化財

高さ183センチメートル、ケヤキの一本づくりで平安時代の作品
です。



やくしによらいざぞう
薬師如来坐像

びょうく もうじゅう きなん いしよくじゅう み
※病苦・猛獣などの危難から身を守ったり、衣食住を充たしてくれる守り仏です。

てんや たばねまつぐん たかてら **天屋の束松群(高寺地区)** てんねんきねんぶつ **県指定天然記念物**

この松は、たくさんの枝がたばねたようになっているため、このような名前がつきました。昔、旅人が越後街道えちごかいどうを通るときに目じるしにしました。



たばねまつ
ひこ束松

きゅうだいほういんやくしどう わかみや **旧大法院薬師堂(若宮地区)** じゅうようゆうけいみんぞくぶんかざい **町指定重要有形民俗文化財**

山伏やまぶしが修行しゅぎょうに使ったお堂です。現在のお堂は江戸時代えどじだいに再建さいけんされたといわれています。



旧大法院薬師堂

(4) 昔からの産業^{さんぎょう}

① しょう油^{つく}造り

坂下周辺の農家では、昔から、自家用の味噌^{じかよう みそ}やしょう油をつくる家が多くあります。これは、原料^{げんりょう}の大豆^{だいず}と米・麦などの生産がゆたかだったからと考えられています。

江戸時代^{えどじだい}には、しょう油屋^{しょうけん}が数件ほどあったことが確認^{かくにん}されています。



しょう油屋

② 酒^{さけ}造り

会津坂下町には、現在、酒^{げんざい さけ}づくりを行う酒造家^{しゅぞうか}が数か所^{すう しょ}あります。その始まりは、江戸時代にまでさかのぼることができます。



酒造り

(5) 昔さかんだった産業 さんぎょう

① 青木木綿 あおきもめん

昔の着物の原料は、かいこのまゆや綿から作ったせんいなどでした。綿はどの農家でも作っていました。そして、綿から糸をつむぎ、糸から機織りをして布を作りました。また、会津でさいばいのさかんだったあいを原料として、布をそめることもしました。特に、青木区の木綿は、代表的なものでした。



青木木綿



はたお
機織り



あい畑



あいをついたうす



あいしぼり



ほし場

なたねあぶら
②菜種油

あおつ あおき なたね さんち
青津・青木区は菜種の産地で、昔から菜種油作りが行われていまし
た。江戸時代の始め頃には、いちば 市場もありとても栄えていました。ここ
で作られた菜種油の多くはえちご 越後に送られました。

7. 郷土を開く

人々は昔から、安全でゆたかな暮らしをしないと願っていました。あれ地を開いて田畑にしたり、用水路をつくって田畑を広げました。しかし、会津地方は川が多く、こう水もたびたび起こりました。人々は長い間大変な苦勞をして、今日の会津坂下町をきずきました。

(1) かんがい用水を開く

① 田畑に水を引く

宮川幹線用水路は、農業用の水を安定してきょう給するための用水路です。

新宮川ダムの約5.5キロメートル下流にある宮川頭首工を始点として、町内の津尻円筒分水工を終点とする、国営、県営合わせて26.6キロメートルにもおよぶこのパイプラインは、と中に調整池3か所、水圧を調整する水そう3か所をかかえる、大変大がかりな施設です。

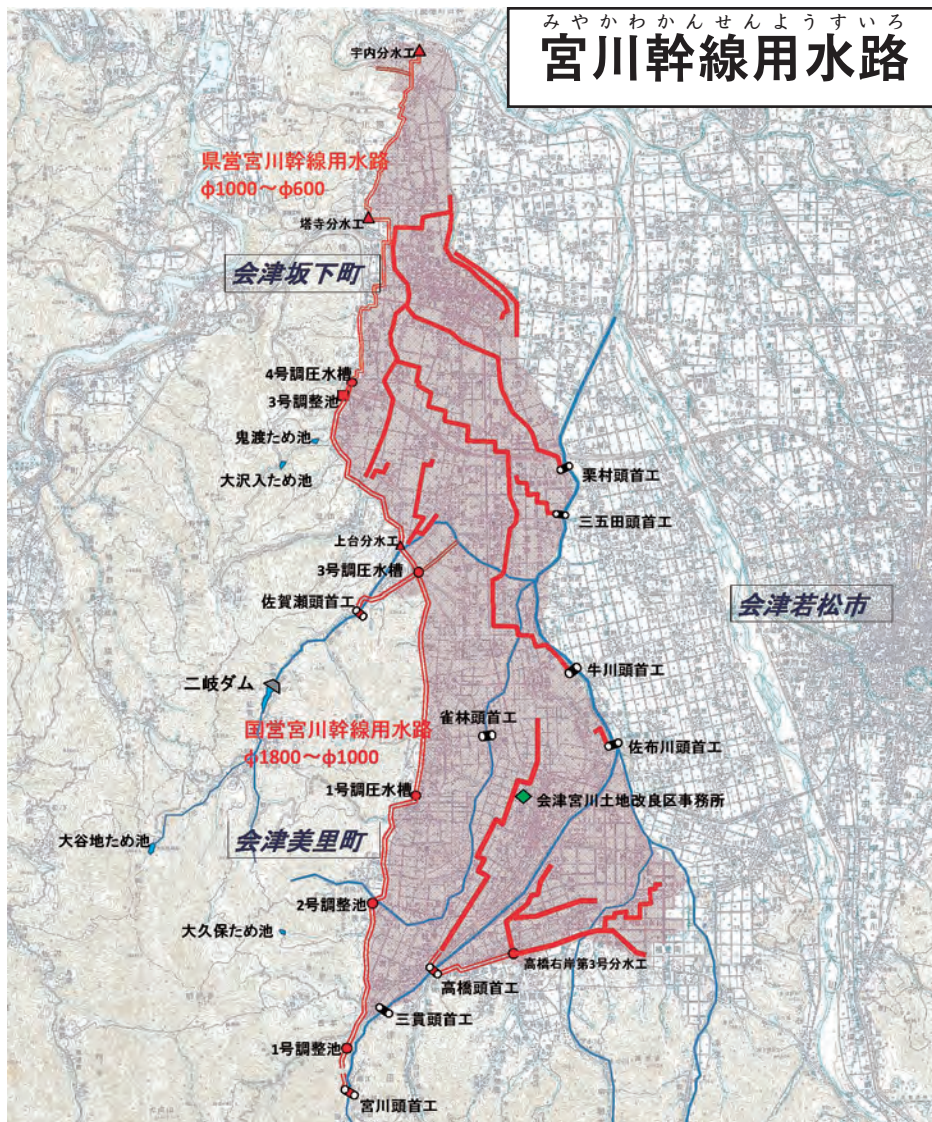
これにより、およそ2,000ヘクタールもの農地がうるおっています。



一号調整池（パイプライン始点）



ダムやパイプラインを管理する部屋



(会津宮川土地改良区)

今はしせつやせつびが整って、農業をとりまくかんきょうは昔とくらべるとはるかによくなりました。

昔の人々には、どんな苦^{くろう}勞があったのかな？



②堰を造る(かんがい用水路)

【栗村堰】(今の栗村幹線用水路)

栗村堰は、鶴沼川から水を引き入れ、若宮地区の東部から町の南部をう回して、塔寺区から川西地区までの約13キロメートルにおよぶ用水路です。この栗村堰には、いろいろな説がありますが、どれもきちんとした記録が残っていないため、はっきりとしたことはわかっていません。

今から700年ほど前までは、栗村(今の定林寺付近)の土地は水の便が悪いために田畑も少なく、民家もまばらでした。



そこで初代地頭であ

今の栗村頭首工の取水口

る栗村盛俊は、農民の生活の安定とはんえいを願って、鶴沼川から水を引き入れて新しく水田を開くことを考えました。途中、いくさで中断することがありましたが、この盛俊から子の盛満(盛光ともいう)、孫、ひ孫の5代にわたって完成したのが栗村堰です。1331(元弘元年)年に着工し、1346~1370(正平年間)年ごろに完成したといわれています。

その後200年ほどたった1536(天文5)年に会津地方に「白鬚の水」とよばれる大こう水がおき、鶴沼川の流がかわりました。そこで、取り入れ口を上流に変こうして行われた改しゅう工事は1570(元亀元年)年に完成し、今にいたっています。

うしざわしんぼりぜき かんせんようすいろ
【牛沢新堀堰】（今の牛川幹線用水路）

うしざわ ごうがしらく さわらみつしげ あわ むぎ
牛沢の郷頭役だった佐原光重は、田が少ないために農民が粟や麦、
だいず
大豆などを食べて苦しい生活をしているのを見て、何とかしたいと考
えていました。

そこで、水を引いて新田を開発する計画を立てました。しかし、光
しげ
重は病にたおれたために、息子むすこの光忠みつただにその願ねがいをたくしました。

みつただ めいれき あいづ
光忠は、1656（明暦2）年、田に水を引くための新田開発を会津
はん
藩に願ねがい出しましたが、正式にみとめられなかったため、自費で人をや
とって工事を進めました。工事はとてもむずかしく費用ひようがたくさんか
かり、ふたたび藩はんにえんじょもとを求め、1万人の人を使って工事を進め
ることができました。

1658（明暦4）年、ようやく約14キロメートルにもわたる水路
かんせい
が完成しました。

とみかわ か すいぜき とみかわかんせんようすいろ
【富川加水堰】（今の富川幹線用水路）

てんぶんねんかん とみかわぜき ぶんせい
天文年間に開かれた富川堰と、富川堰の水量をおぎなうために文政
年間に開かれた加水堰を合わせて「富川加水堰」とよびます。

今から480年ほど前、金上地区かながみの東部ひろせや広瀬地区ひろせの東部ひろせは鶴沼川つるぬまがわ
より高台になっていることで、水不足のために水田が少なくこまっ
ていました。そのため、年々住む人も少なくなっていました。何とか
したいと考えた人々は、東河原村ひしがわら（今の青木区あおきの一部）の赤井六郎左
衛門えもんを中心として、1536（天文5）年2月、大川おおかわの水を引き入れて
れいぶち つかはら さいくな むらた おいけ あおづ
鈴渕から東原、細工名、村田むらたを通して御池おいけ、青津あおづまで約12キロメー
トルにおよぶ水路を開く計画を立てました。

その熱意ねついが当時の領主りょうしゆにみとめられ、のべ約1万人にんぶの人夫と85両
ひよう
の費用があたえられました。

工事の完成を目前にして六郎左衛門は急死してしまいましたが、長男の六平が仕事を受けつぎ、完成させました。

富川堰の名前には、この地方が長く栄えることを願った人々の思いがこめられています。

米がたくさん取れるようになると、下流では水不足の問題が起きてきました。そこで、新たに富川堰に水をおぎなう水路をつくる計画があがり、1830(文政13)年に村民が力を合わせて工事を進めました。こうしてできたのが、加水堰です。

(2)新しいダムを造る

【新宮川ダム】

あいつみやかわ 会津宮川地区（会津
みさと 美里町、会津坂下町）
あいつぼんち の会津盆地に広がる約
4,500ヘクタールの
土地に水をきょう給す
ために建設された農
業用のダムです。



新宮川ダムの貯水池

1993（平成5）年から10年かけて工事を進め、2003（平成15）年に完成しました。新宮川ダムにより形成される湖は、関係する町村の住民から公募して、「会津美里湖」と命名されました。ダムの所在する町の名であり、また、ダムの水により地いきが水に育まれた美しいふる里となることを願って名付けられました。このダムでは、水を放流するさいの落差を利用して、発電も行っています。



ダムの管理施設



発電所の建屋

おおかわ
【大川ダム】



大川ダム

大川ダムは、会津若
まつ 松市から南会津郡下郷
あ 町にかけて広がる、阿
が の がわそうごう
賀野川総合開発事業の
いっかんとしてつくら
たもくてき
れた多目的ダムです。

1971（昭和46）年から1987（昭和62）年までの16年もか
けて完成しました。かんがい用水、水道用水工業用水として使われ
ており、※揚水式およびダム式発電も行っています。

大雨などでこう水のおそれがある場合にたくさんの水を調節でき
るように、11もの門があります。

利用目的	きょう給する量	きょう給先
かんがい用水	19.7立方メートル	4,400ヘクタール農地
水道用水	27,500立方メートル	会津坂下町、会津美里町、 会津若松市にきょう給
工業用水	72,500立方メートル	会津若松地区にきょう給
揚水式発電	最大100万キロワット	電源開発(株)下郷発電所
ダム式発電	最大2万1千キロワット	東北電力(株)大川発電所

※揚水式：夜間などの電力使用の少ない時間帯のあまった電力を利用して下池から貯水池へ
水をくみ上げておき、電力が必要となる昼間に下へ水を落とすことで発電を行う水力発電の
しくみ。

(3) 町にゆかりのある人々

わたしたちの町にゆかりのある人々の中には、会津にとどまらず日本の歴史に名前を残している人が少なくありません。

板谷 まる(いたや まる) 旧姓 鈴木 1870～1958

明治から昭和にかけての教育家、とう芸家。町内のごふく店の三女として生まれました。

共立女子職業学校(今の共立女子大学)に入学、
※瓜生岩子の内弟子となり、奉仕活動を手伝うようになりました。



その後会津にもどり、1893(明治26)年、会津若松に会津女子職業学校(今の葵高校の前々身)をそう立しました。1895(明治28)年に板谷まる(右)と波山はとう芸家の板谷波山と結婚し、夫の焼き物制作に協力するだけでなく、自分も日本画を描くなど芸術活動を行いました。

※瓜生岩子：幕末から明治の混乱した時代に社会福祉に力をつくした。日本のナイチンゲールと言われる。喜多方市生まれ。

茂原 次郎(もばら じろう) 1865～1930

坂下講学堂の創始者。

1903(明治36)年、児童がふえたことによる学校の先生の不足をおぎなうため、先生を養成する学校として今の茶屋町に「坂下講学堂」をせつ立しました。

私立の教員養成学校としては、当時県内にただ一つのもので、ひょうばんも良く多くの卒業生を送り出し



講学堂の写真(円内は茂原次郎)

ました。

中野 友禮(なかの ともり) 1887～1965

おおぬま かわにし みしま たいしょう しょうわ
大沼郡川西村（今の三島町）に生まれた大正から昭和時代前半の実業家。

きゅうあいづはんし
旧会津藩士の家の次男として生まれ、おさな
やはた どうてら ようし
いころに八幡地区の塔寺にあった中野家の養子
となりました。

1908（明治41）年、きょうとていだい 京都帝大（今の京都大
りがくぶ しょくえんてんかいほう
学）理学部助手となり、中野式食塩電解法など
とっきよ
の特許をとりました。



中野友禮

その後、1920（大正9）年、にほんソーダかぶしきがいしゃ 日本曹達株式会社をせつ立し、りつ せんそう 戦争
をきっかけとしていろいろなせい品を生産するようになりました。会
かんれん
社は関連するものをふくめると、42社にもなりました。

1940（昭和15）年には、きゅうやはた たてももの きふ 旧八幡小学校の土地と建物を寄付し、
げんざい あとち ひ た
現在、旧八幡小学校跡地には中野友禮をたたえる碑が建てられていま
す。

堀部 安兵衛(ほりべ やすべえ) 1670～1703

ちゅうしんぐら あこうろうし
忠臣蔵で有名な赤穂浪士47人の一人。

もともとの名字は中山で、えちご しばたはんし 越後の新発田藩士だっ
た父の中山安太郎が町内（ちややまち きとくじ 茶屋町）の貴徳寺の一室
を借りて住むことになり、1670（かんぶん 寛文10）年に
安兵衛が生まれました。

その後、えど けん 江戸に出て剣のうでまえて名前をあげ、
ほりべやへえ ようし やすべえ
堀部弥兵衛のむこ養子となり、堀部安兵衛と名前を



堀部安兵衛の銅像

か
変えました。

どのさまのかたきを討つために、おおいしくらのすけ きらてい
殿様のかたきを討つために、大石内蔵助らとともに吉良邸に討ち入
り、見事吉良上野介を打ち果たしました。



のこ どの
名前が残る「安兵衛通り」

げんろく
1703（元禄16）年2月4日、
なかま せつぶく きょうねん
仲間とともに切腹しました。享年
さい
34歳。

はか き
安兵衛の両親のお墓が、今も貴
とくじ
徳寺にあります。

中野 竹子(なかの たけこ) 1850(1846や1847の説も)～1868

あいづはんし
会津藩士の長女として江戸で生まれました。

けいおう
書道となぎなたにすぐれており、1868（慶応
4）年、あいづせんそう
会津戦争が始まる前に会津にもどり、坂
下にある知り合いのたまきとくごろう
玉木徳五郎という人物の所に
身を寄せていました。

まつだいらけ ようじょ てるひめ ごえい
会津松平家の養女であった照姫を護衛するた
めに、母、妹といっしょにわかまつ
若松に向かい、そのとち
ゅうでのたたか じゅうだん
戦いで銃弾を受け、亡くなりました。その亡きがらは、今も
ほっかいじ まいそう
町内の法界寺に埋葬されています。



中野竹子の肖像画

たけ
「武士（もののふ）の猛き心にくらぶれば
かず わ み
数にも入らぬ我が身ながらも」
じせい く
の辞世の句（亡くなるときに詠んだうた）は大変有名です。

武田 惣角(たけだ そうかく) 1860(1859の説も)～1943

あいづ みやずもう おおぜき しらいと そうきち
惣角は、会津の宮相撲で大関（しこ名 白糸）だった武田惣吉の子
どもとしておいけ
広瀬地区の御池（現在の御池田）に生まれました。

長男と次男の説があり、はっきりしていません。

全国の^{ぶどうか}武道家をたずねてまわり、^{しゅぎょう}修行にはげみました。そのとちゅう、^{だて りょうぜんじんじゃぐうじ}伊達郡靈山神社宮司の^{ほしなちかのり あいづはんかろう さいごうたのも}保科直惠（会津藩家老 西郷頼母のこ）から、^{だいてりゅうあいきどう ひてん}大東流合気道の秘伝を教わりました。この武道は800年以上前にできたものですが、会津藩に^{つた}伝わった後は^{ひじゅつ いっぱん}秘術として一般には知られていませんでした。惣角は頼母の「^{やり}剣や槍の時代は終わった。合気道を広めよ。」の言葉を守り、全国にふきゅうさせることに力をつくしました。その^{けっか もんかせい}結果、門下生は3万人におよんだということです。



武田惣角

石田 和助(いしだ わすけ) 1853～1868

^{ぼしんせんそう}戊辰戦争のさいに^{いもりやま じじん}飯盛山で^{びゃっこたいし}自刃した白虎隊士の一人。

父親が^{しもかいづ}金上地区の^{しんかいづ}下開津（今の^{しんかいづ}新開津）の農家に生まれながら^{どりよく}努力して医者になったため、まわりの^{ともだち}友達から「なり上がり者」と、悪口を言われていたそうです。

これに対して和助は、「たしかに自分の家は農家からのなり上がりだが、お前たちの^{せんぞ}先祖はりっぱな人だったと聞く。ならば、お前たちはご先祖に対してなり下がり者ではないか。」と言い返したそうです。

^{びゃっこたいしちゅうにばんたい}白虎隊士中二番隊の一員として戦っている最中、ものすごいけむりに^{かこ}囲まれた^{つるがじょう}鶴ヶ城を見てお城が燃えて会津が負けたとかんちがいし、ほかの^{たいし}隊士とともに^{せつぶく}切腹して^は果てました。切腹のさいは、「手きずが



石田和助の肖像画

苦しいのでお先に御免」と、真っ先に腹を切ったと伝えられています。

岨州上人(ぎゅうしゅうしょうにん) ?～1592

会津では昔から徳一大師、天海大僧正とともに、三傑僧の一人として知られています。

今の広瀬地区の青木に生まれ、おさないころは荒五郎という名前でしたが、10歳の時に仏門に入り、京都で学問の修業をしました。

その後、1558(永禄元)年に当時の天皇(正親町天皇)によばれて法話を行うなどして紫の衣を賜りました。紫の衣は天皇か身分の高い人しか着ることをゆるされませんでした。このような名声や信頼が高まり、知恩寺第30世大僧正をつとめました。

朝廷だけでなく、上杉謙信などの有名な武将とも深いつきあいがあったと伝えられています。

薄 新六(うすき しんろく) 1904～1988

会津坂下町名誉町民・事業家。

若宮地区の牛沢生まれで、上京した後、1924(大正13)年に薄商店をせつ立しました。

その後事業を広げ、1959(昭和34)年に東洋クラウン株式会社を作り、自ら発明した容器の金属キャップで注目を集めました。

1974(昭和49)年に勲四等瑞宝章を受け、1977(昭和52)年3月4日名誉町民となりました。

発明されたキャップは改良され、今も清涼飲料水、栄養ドリンク、アルコール飲料などに広く使われています。



薄新六

齋藤 清(さいとう きよし) 1907～1997

会津坂下町名誉町民・版画家。

高寺地区くぼの窪さいに生まれ、4歳まで会津坂下町で過ごしました。その後は北海道ほっかいどうの夕張ゆうばりで子ども時代を送りました。

高等小学校卒業後、働きながらだれからも教わらず一人で絵を学びました。24歳で上京し、1942(昭和17)年には版画の個展を開き、「会津の冬」を発表しました。

世界各国に版画を出品するなど、国内はもとより世界的に活やくした業績がみとめられ、紺綬褒章、勲四等瑞宝章や文化功労賞を受けました。1977(昭和52)年3月4日、名誉町民となっています。

柳津町には「やないづ町立齋藤清美術館」が開館されており、柳津町の名誉町民にもなっています。



齋藤清

小林 五浪(こばやし ごろう) 1925～2005

会津坂下町名誉町民・画家。

本名は小林五郎。

金上地区かながみの太田谷地おおた やちに生まれ、東京文化学院美術科を卒業後、福島県展に初出品した作品「村娘」が県知事賞を受賞しました。

1952(昭和27)年には当時の金上中学校の先生となり、1973(昭和48)年に会津若松市立第二中学校で退職するまで21年間、生徒の指導に力をつくしました。



小林五浪

その後は制作活動に専念し、日本美術院展などで数多くの賞を受賞しました。

1981（昭和56）年には、紺綬褒章を受けるとともに、会津坂下町名誉町民となりました。

2001（平成13）年、自ら五浪美術記念館を建て、そのしせつと多くの作品を町に寄付しました。

春日 八郎(かすが はちろう) 1924～1991

会津坂下町名誉町民・歌手。

本名は渡部實。

八幡地区の塔寺に生まれ、歌手を目指して上京し、東洋音楽学校を卒業後、本格的に歌手活動を始めました。

「赤いランプの終列車」・「お富さん」・「別れの一本杉」など、数多くのヒット曲を生み出した国民的歌手で、紫綬褒章も受けました。

会津坂下町民歌および会津坂下町民音頭を作曲し、自ら歌いレコーディングしました。旧坂下第二中学校の校歌および応援歌も作曲し、母校の旧八幡小学校にはグランドピアノも寄付しました。

1981（昭和56）年9月18日、会津坂下町の名誉町民となりました。

会津坂下駅前には銅像が建てられており、「別れの一本杉」の舞台となったところには、記念公園・おもいで館があり、多くの思い出の品が展示されています。



春日八郎

高橋 藤園(たかはし とうえん) 1903～2002

会津坂下町名誉町民・書家。

本名は高橋藤吉郎。

若宮地区の原に生まれ、福島県書写書道研究会
特別功労賞・福島県教育行政功労賞・福島県知事
表彰・福島県文化功労賞などたくさんの賞を受賞
しています。

勲五等双光旭日章も受けました。

藤園会を主催し、小中学校の書の向上に力を注
ぎました。

町内の小中学校、公民館などへたくさんの書を寄付しています。

1982(昭和57)年12月10日、会津坂下町名誉町民となりました。

これらの業績がみとめられ、町によって中央公民館前に銅像が建て
られました。



高橋藤園

星 扶(ほし たすく) 1901～1993

会津坂下町名誉町民・医師。

会津若松市に生まれ、1926(大正15)年に
会津坂下町に星医院を開業しました。

学校の校医さんや会津坂下警察署の警察医を長
くつとめ、特に警察医の仕事では町内だけでなく
金山町や昭和村までの広いはん囲を手がけまし
た。

1958(昭和33)年2月、両沼郡第2代医師会会長になりました。

剣道連盟会津坂下支部長や会津坂下剣友会の会長もつとめ、町内の



星 扶

小中学生に剣道教室を開いて、健全育成にも力をつくしました。

それらの功績がみとめられ、1987（昭和62）年に勲五等双光旭日章を受けました。1990（平成2）年4月に名誉町民となっています。

大堀 勉(おおほり つとむ) 1925～2012

会津坂下町名誉町民・医師。

金上地区の新開津に生まれ、岩手医学専門学校を卒業後、泌尿器科を専門として東京の慈恵会医科大学や岩手医科大学につとめました。

1966（昭和41）年には、岩手医科大学の教授となり、多くの優秀な人材を育てました。

「切らずになおす」ちりょう法に取り組むとともに、じん臓の生体移植でも多くの成果をあげました。

1990（平成2）年からは岩手医科大学理事長として、力をつくしています。2000（平成12）年12月4日に名誉町民となりました。



大堀 勉



ここでしょうかいしたほかにも、たくさんの方が会津坂下町のために力をつくしました。

家の人に聞いたり、図書館などで調べたりしてみましょう。

調べた人の名前

町のためにしたこと(どんなことで有名になったかなど)

8. 地いきに伝わる伝統

(1) お祭り

① 初市と大俵引き

今から約400年前、会津坂下町は、たびたびこう水のひ害がいにあっていました。また会津大地震あいつだいじしんもあり、新しい町づくりを始めました。そして、会津坂下町は商人の町となりました。

このころから、1年の初めはじの市は、1月14日に行われ「初市」として大ぜいの人でにぎわいました。

江戸時代、屋根から投げた俵を、人々が東西にわかれてうばいあったのが大俵引きの始まりです。大俵引きは一時中断いちじちゅうだんしましたが、1955（昭和30）年に6つの町村が合併して会津坂下町ができたのをきっかけに、よく年またふっ活がっべいしたのです。大俵引きで東が勝つと米のねだんが上がり、西が勝つとほう作になるのだそうです。

会津坂下町の初市と大俵引きの始まりはこうだったんだね。



昭和31年の大俵引きの様子

② お田植えと早乙女おどり

昔、今の定林寺じょうりんじあたりに栗村弾正くりむらだんじょうという武士ぶしが住んでいました。当時農家の人たちは、水不足みずぶそくで大変苦しんでいました。栗村弾正は、人々

を助けたいと思い、稲荷神社いなりじんじゃにおいのりをすると、ゆめにお告つげがありました。お告つるぬまがわげのとおりつるぬまがわに鶴沼川のほとりまで地面をほり進めていくと、川ができ、それから水が行きわたったそうです。その後、稲荷神社すわじんじゃけいだいは諏訪神社境内にまつられました。このくりむらいなりじんじゃ栗村稲荷神社のお祭りがお田植え祭りとなりました。

毎年7月7日に行われるこのお田植え祭りでは、早乙女たちが田植え姿すがたでおどります。



みこしとぎよ
神輿渡御
神様うじこを乗せた神輿が氏子のいる町内をめぐる

昔は水不足で、人々はとても苦くろう勞したんだね。



③秋祭り(諏訪神社祭礼さいれい)

町の諏訪神社のお祭りで、今から約600年やくくらい前はじに始まりました。作物しゅうの収いかくを祝うお祭りでもあります。大正10年ごろからたいこ台たいこを作って町の中を歩くようになりました。

その後かそうだし仮装山車を引き、コンクールも行おこなわれるようになったそうです。

○よい祭り

ちょうちん行列

ライトアップ仮装山車

○本祭り

みこしとぎょ
神輿渡御 ちご行列

かそうだし
仮装山車コンクール



昭和の初めごろの仮装の様子



秋祭りは、作物の収かくを祝う行事
なんだね。

す わ じん じゃ 諏訪神社って？

かまくらじだい しんしゅうす わ ながの わかまつ くらかわ
鎌倉時代に信州諏訪(長野県)から若松(当時は黒川といいました)



に諏訪神社をうつす時、神様
を乗せた神輿がと中のところ
どころで休けいしました。休
けいした場所にあとから諏訪
神社が建てられました。坂下
の諏訪神社もそのひとつです。

今は火事で本殿がなくなりましたが、焼ける前の
諏訪神社祭礼の様子

(2) 伝統芸能^{でんとうげいのう}

① 今も続いているもの^{つづ}

今も続いている伝統芸能に牛沢甚句^{うしざわじんく}と青津甚句^{あおづじんく}があります。青津区では保存会^{ほぞんかい}をつくり、受けついできています。

牛沢甚句

江戸時代^{えどじだい}、牛沢^{うしざわ}にある大徳寺^{だいたくじ}が火事^{たいとくじ}にあいました。新しくお堂^{どう}を建て^たるときの大工^{えちご}さんは越後^{にいがた}（新潟県）の人たちでした。大工さんたちは毎ばん仕事^{えちご}が終わるとふるさとの歌^{うた}を歌^{うた}ったり、ふるさとのおどり^{おどり}をおど^{おど}ったりしまし



牛沢甚句^{うしざわじんく}

た。牛沢の人たちもいっしょに歌^{うた}ったりおど^{おど}ったりしているうちにおぼえて、大工さんたちが越後に帰^{かえ}ったあとも歌とおどりは牛沢^{のこ}に残^{のこ}ったと伝え^{つた}られています。

牛沢甚句は今でも9月9日に行われ、亡くなった人の供養^{くよう}として歌いおどり続けられています。



牛沢甚句は、大工さんがふるさを思い出して歌ったのがはじまりだったんだね。

あおつじんく
青津甚句

青津甚句の由来はよく分かっていませんが、毎年8月14日に、牛沢甚句と同じように亡くなった人の供養のために行われてきました。今でも歌やはやしが青津の子どもたちへと伝えられ、受けつがれています。



青津甚句

②形をかえてつづけているもの
にいだてさおとめ
新館早乙女おどり

早乙女おどりは、その年の秋のほう作をおいのりするために、田植え姿のおどり子が、田植え歌にあわせながらおどるものです。昔の農作業や生活のようすがうかがえるなつかしいおどりです。新館で受けつがれてきましたが、人口



早乙女おどり (定林寺)



もへり、おどり子も少なくなってきたので、げんざいは会津農林高校の女子生徒が毎年お田植え祭りにおどり、伝統を守っています。

早乙女おどりは、ほう作をいのっておどったんだなあ。

③すでにとだえてしまった^{でんとうげいのう}伝統芸能

^{ばんげ だいかぐら}坂下の太神楽

太神楽はそれを仕事にしていた人が、農家を回って歩きました。獅子頭^{ししがしら}によるおどりが中心となっておどるものでした。獅子の力であくまを追いはらうという言い伝えがありました。病気やけががおこらないようにと、昔の人たちは、太神楽をととてもかんげいしていました。



^{だいひょうてき えんもく おおながしし}代表的な太神楽の演目「大長獅子」

^{にいだて あいづまんざい}新館の会津萬歳

新館は会津萬歳^{さいしよ}のととてもさかんなところでした。最初に萬歳をはじめた人は東海林^{しょうじ}さんという人でした。東海林さんは酒屋^{はたら}さんで働いていました。もともととても器用^{きよう}な人で、特に萬歳は天才^{とく}だったそうです。「年始萬歳^{ねん しまんざい}」のほかに「八百屋お七^{やおやしち}」「源義経^{みなものよしつね}」などの演目があったそうです。

また、多いときでは新館には20人くらい萬歳をやる人がいたそうです。

一時は数多くの方が萬歳をやっていましたが、昭和30年ごろからしだいにやる人もいなくなり、またできる人も年をとってきたので、この伝統芸能もしだいにすたれていったそうです。



会津萬歳の様子

(3) 伝説・伝承

仁王様の大げんか

会津五桜の一つで有名な杉の糸桜のある薬師堂は、小高い見晴らしの良い所にあります。

この境内に登る石だんの中ごろに仁王門があり、仁王様がいかめしい顔でにらみをきかせています。この仁王様は、昔、川上から大こう水の時に流されてきてここにたどり着きました。それからずっとここにいます。

それは、今から500年ほど前の大こう水の時の話です。それまで今の会津美里町新鶴の、田子薬師への登り口にありましたが、かつてない大こう水だったため、さすがの仁王様もおし流され、大目玉を開けたままどんどん流されてしまいました。

その時東風がふいとみられ、川下の杉にたどり着きました。さっそく杉の村の人は、どろを洗い流し、薬師堂境内にまつりました。そのうわさを聞いた新鶴の村人は、杉村に仁王様をもらいに行くと杉村の人々は「こんな大こう水で、せっかくさずかったのだから、だれが何と言ってもこの村から動かさない。」とがんばってききませんでした。

とうとうそれ以来、杉の薬師堂を見守っているとのことです。

その後、杉の仁王様と塔寺の仁王様が大げんかをしたことがあったそうです。その取



り組みの時、塔寺の仁王様がどろ田に投げ飛ばされたそうです。そのため今でも体が黒いとか。また、杉の仁王様は乳首をかじられたので、それがなくなってしまったそうです。

だい みや や じゅうろう 台ノ宮の弥十郎きつね

台ノ宮の神社は今でこそきれいな公園ですが、昔は昼も暗くジャングルのように、お宮にお参りするときは日中でもちょうちんを下げていました。

ここにはきつねの巣がたくさんあり、その中に弥十郎という女に化けるきつねが住んでいました。男たちはよくだまされて頭をぼうずにされていました。

ある日、青年たちが、頭をぼうずにされなかった者には望みの品をくれるというかけをしました。しかし先に行った何人かは丸ぼうずにされてしまいました。そこで自分の番が来たある青年は、自分はだまされずに品をもらってやろうと決心して、きつねの出るのを待ちました。ほどなく、やぶの中で音がしたと思ったら、とつぜん美人があらわれ、*馬の沓をひょいとかたにかけたかと思うとそれが赤ん坊に変わりました。いよいよ自分をだます気かなと思いながら見ていると、化け女はある家に行き家の中で話し始めました。それをのぞき見た青年は「その女はきつねが化けたのだ。だまされないように。」と注意しました。すると親父さんは大變おこって、青年をつかまえて打ちのめしました。

その時、おぼうさんが通りかかり、じじょうを話した後弟子入りすることになりました。おぼうさんの弟子なのですぐに頭をそることに

※馬の沓:ひづめや足の裏を守るために馬にはかせたわらぐつ。

なりましたが、とてもいたくてたいへんでした。青年は頭をかくしながら仲間^{なかま}のところまで来て、きつねが女に化けたのを見やぶったが、男に打ちのめされたことを話しました。仲間がそっと青年の後ろに回って頭の手ぬぐいをとったら、でこぼこ頭の丸ぼうずで、所々にむしり^{のこ}残りの毛が残っていたそうです。



会津坂下町には、たくさんの言い伝^{つた}えがあるんだね。

なんで坂下^{ばんげ}なの

会津出身の人であれば、「坂下」と書いて「ばんげ」と自然^{しぜん}に読むことができますが、一^{いっ}ばん^{てき}的にはなかなかよむことができません。そこで、「坂下」の由来について調べてみました。

「ばんげ」とはアイヌ語で「ばっけ」「はけ」のなまったものではないかともいわれています。「ばっけ」とは、がけのような地形をさします。つるぬまがわ^{つるぬまがわ}は、やく^{やく}500年近く前まで大きな川でした。古坂下^{こばんげ}の台ノ宮公園^{だいみや}の東側^{ひがしがわ}を囲むように流れていたといひます。台ノ宮公園^{ふきん}付近はまさに半島のようながけであったと考えられます。また、「ばっけ」には「ふきのとう」という意味もあります。台ノ宮公園のがけ

は、春の初めにはふきのとうでおおわれていたかもしれません。

次に、「坂下」といつからよばれたかと資料で調べてみると、今から約500年近く前の書物に「坂下」と記されています。

いずれにせよ「坂下」の由来やいつからよばれるようになったかは、はっきり分かりません。

また、昔の書物を調べてみると、「ばんげ」を番下とも坂下とも書いたようです。その後「ばんげ」は全て坂下と書かれるようになったようです。

会津坂下町には、このほか高寺伝説などもあり、本当になぞめいたところでは。



わたしたちの会津坂下町

9. これからの会津坂下町と わたしたちの心がまえ

町の将来像^{しょうらいぞう}の「好き^す！すき！ばんげ」には、自分が好き、人が好き、地いきが好き、子どもからお年よりまで「ばんげ」を好きになれるような町にしたいという願い^{ねが}がこめられています。

その願いを実現^{じっげん}するためには、まず自分が住んでいる町を知ることが一番大事です。そうすると、今まで気づかなかった新しい発見が生まれ、昔から今までの歴史^{れきし}のつながり、人と人とのつながり、地いきと地いきのつながり、そして人と地いきのつながりがわかります。

いろんなつながりがわかることで、会津坂下町が大好きになると思います。また、わたしたちの町の将来^{しょうらい}をどうしなければならないのか、大好きな町を未来^{のこ}に遺すには何をしなければならないのか見えてくるはずです。

今後、わたしたちの生活は、時代とともに変化^{へんか}し、大きくうつり変わっていき、いく度となく問題が生じてくるはずです。問題をかい決するためには、一人一人しっかり考え、行動しおたがいに協力^{きょうりょく}し助け合うことが重要^{じゅうよう}となります。

もっともっと大好きな町にできるのは、きみたち、あなたたちです。自分の生まれ育った町にほこりを持ち、今何ができるのか、将来大人になったら何をすべきか、みんなで話し合ってみましょう。

会津坂下町の原始～近世のあゆみ

時代			会津坂下町の主な遺跡とできごと	日本や会津のおもなできごと	
約3万年前 約2万年前	旧石器時代		次郎坂遺跡 (ナイフ型石器) (川西) 鍛冶山遺跡 (荒屋型彫刻刀石器) (川西)	日本に人が住み始める ナイフ形石器などを使用する ウルム氷期最寒冷期	
約1万年前		早期	大村新田遺跡 (擦糸文土器) (若宮) 出崎山遺跡 (常世式土器) (川西)	縄文時代の温暖期(縄文海進)	
約6000年前	縄文時代	前期	次郎坂遺跡 (川西) 経塚遺跡 (八幡)	沼沢噴火	
約4500年前		中期	勝負沢遺跡 (川西) 北川前遺跡 (複式炉) (川西) 花畑遺跡 (川西)	火炎系土器が造られる	
約3000年前		後期	大門遺跡 (八幡) 竈原遺跡 (川西)		
約2400年前		晩期	袋原遺跡 (川西) 鬼波A遺跡 (若宮)	亀ヶ岡文化が栄える	
約1700年前		弥生時代		経塚遺跡 (八幡) 能登遺跡(天王山式土器) (若宮) 細田遺跡 (若宮)	九州地方で米作りが始まる 鉄器や青銅器が使われる 239 邪馬台国の卑弥呼が魏に使いを送る
			前期	稲荷塚遺跡(方形周溝墓) (坂下) 男壇遺跡 (広瀬) 杵方森古墳(前方後円墳) (坂下) 森北1号墳(舟形木棺) (川西) 宮ノ北遺跡(管玉工房跡) (広瀬) 亀ヶ森・鎮守森古墳 (広瀬)	前方後円墳が造られる 会津地方で大型古墳が造られる
約1300年前	古墳時代	中期	長井前ノ山古墳 (合掌形石棺) (川西) 中平遺跡(平地式住居跡) (川西)	須恵器が造られる 埼玉県稲荷山古墳鉄剣がつくられる	
		後期	経塚古墳(形象埴輪) (八幡) 樋渡台畑遺跡 (若宮) 鍛冶山古墳(横穴石室) (川西) 鬼波古墳群(横穴墓) (若宮)		

時代	会津坂下町の主な遺跡とできごと	日本や会津のおもなできごと
約 800 年前	飛鳥・奈良・平安時代 大江古屋敷遺跡（郷衙）（若宮） 四百刈遺跡（若宮） 萩ノ窪窯跡（須恵器窯跡）（川西） 中丸製鉄遺跡（八幡） 北遠面遺跡（広瀬） 宮ノ北遺跡（川西） 陣が峯城跡（二重堀）（川西） 葉王寺遺跡（園池＝池跡）（八幡）	604 十七条の憲法 645 大化の改新 672 壬申の乱 701 大宝律令 710 都を平城京へ移す 794 都を平安京へ移す この頃徳一が慧日寺建立 935 平将門の乱 1051 前九年の役 この頃蟠川荘が成立 1182 横田河原合戦
約 400 年前	鎌倉・室町・安土桃山時代 中丸C遺跡（若宮） この頃恵隆寺観音堂が建てられる 古館遺跡（広瀬） この頃栗村堰が完成する 樋渡台畑墳墓群（若宮） 1350 塔寺八幡宮長帳の記載がはじまる 的場館遺跡（八幡） 1419 会津大洪水（白鬚の水）が起こる この頃富川堰が完成する 館ノ内遺跡（若宮） 金上城跡（金上） 1589 摺上原の戦いが起こる 金上盛備、栗村満盛が戦死する 1595 坂下・栗村大火が起こる 栗村と坂下を合わせて坂下村となる	1189 奥州合戦 1192 鎌倉幕府を開く 1336 南北朝動乱 1415 輩名氏、新宮城を攻める 1419 会津大洪水（白鬚の水） 1467 応仁の乱 1543 鉄砲伝来 1590 奥羽仕置 1600 関が原の戦い
	江戸時代 大溝水遺跡〔排水路〕（川西） 1625 坂下村に現在の街並みの基礎ができる（町割） 六斎市が開かれる 1658 牛沢新堀堰が完成する 1723 坂下村で大火（もぐら焼け）が起こる 御池田山ノ神遺跡（広瀬） 1728 坂下村で大火が起こる 1729 旧五十嵐家住宅（国重要文化財）が建てられる 真徳寺跡（高寺） 1748 坂下村で大火（四ツ屋火事）が起こる 1764 立川村に藍栽培始まる 杉窯跡（八幡） 1830 加水堰が完成する	1603 江戸幕府を開く 1611 会津大地震 1643 保科正之が会津の領主となる 1809 「新編会津風土記」が完成する 1868 戊辰戦争

会津坂下町の近代・現代のあゆみ

年号	会津坂下町のおもなできごと	日本や会津の主なできごと
明治元年 (1868年)	○坂下に民政局分局がおかれる。 ○西軍が坂下・塔寺・宇内に進む。坂下村で百姓一揆が起こる。片門・天屋・本名・杉山などで百姓一揆が起こる。	○明治維新。 ○戊辰戦争で鶴ヶ城が落城する。
明治2年 (1869年)	○坂下の民政局が廃止され、代わって若松県庁の取締所がおかれる。 ○中野竹子の墓が本町法界寺に建立される。	○版籍奉還。 ○若松県がおかれる。
明治4年 (1871年)	○若松県下が区に分けられ、現在の会津坂下町では、牛沢組十八区、坂下組十九区、青津組二十区、野沢組五十一区に分けられる。	○廃藩置県。 ○郵便制度施行。
明治5年 (1872年)	○坂下村に若松警察署坂下分署がおかれる。	○学制公布。 ○新橋―横浜間の鉄道開通式が行われる。 ○太陽暦を採用する。
明治6年 (1873年)	○坂下、若宮、金上、広瀬、川西、八幡、高寺の各地区に小学校ができる。	
明治7年 (1874年)	○坂下村に坂下郵便取扱所が開設される。	
明治9年 (1876年)		○若松・福島・磐前の3県がまとまり、今の福島県となる。
明治10年 (1877年)	○坂下村上町・同中町・同下町・横古町の4町村が合併して坂下町となる。	○西南戦争が起こる。
明治12年 (1879年)	○郡区編制により坂下町に河沼郡役所がおかれる。 ○坂下町新町から出火、ほとんど全町を焼く(ペコ屋火事と称す)	
明治13年 (1880年)	○若松警察署坂下分署が坂下警察署となる。	
明治14年 (1881年)	○坂下町に治安裁判所出張所がおかれる。 ○宮古橋(船橋)ができる。	
明治15年 (1882年)	○坂下町に製糸所が創業する。	○安積疎水が完成する。
明治17年 (1884年)	○藤橋(現藤大橋)ができる。	
明治21年 (1888年)		○磐梯山が噴火する。
明治22年 (1889年)	○若宮村・金上村・広瀬村・川西村が誕生する。	○大日本帝国憲法が公布される。 ○市制・町村制が施行される。
明治24年 (1891年)	○富川堰普通水利組合ができる。	
明治25年 (1892年)	○牛川新堀水利組合ができる。	
明治27年 (1894年)	○加水堰普通水利組合ができる。	○日清戦争が始まる。
明治29年 (1896年)	○坂下町に絹織物伝習所ができる。	○三陸地震津波が発生する。
明治30年 (1896年)	○坂下町大火。焼失住家182戸。半焼86戸の被害がある。	
明治31年 (1898年)	○坂下町内から出火(薬用人参乾燥場)住家など300戸が焼ける。	○若松町が若松市になる。 ○会津地方に赤痢が大流行する。
明治32年 (1899年)	○煙草製造業および葉煙草売買業が始まる。	○若松町が若松市になる。 ○会津地方に赤痢が大流行する。

年号	会津坂下町のおもなできごと	日本や会津の主なできごと
明治 33 年 (1900 年)		○会津電力株式会社がつくられる。
明治 36 年 (1903 年)	○私立坂下講学堂・私立坂下幼稚園が設置される。 ○坂下郵便局となる。	
明治 37 年 (1904 年)	○恵隆寺観音堂が特別保護建造物(現国重文)に指定される。	○岩越鉄道(現磐越西線)若松―喜多方間の鉄道が開通する。 ○日露戦争が起こる。
明治 38 年 (1905 年)	○坂下町内から出火。184 棟が焼ける。	○ポーツマス条約を調印する。
明治 40 年 (1907 年)	○河沼郡立農業学校(現会津農林高等学校)が開校する。	○小学校の義務教育が6年となる。
明治 43 年 (1910 年)	○坂下町に特設電話が開通する。 ○若松―坂下間に県下で初めて乗合自動車が行く。 ○坂下町に絹糸の製糸工場ができる。	○韓国を併合する。
明治 44 年 (1911 年)	○坂下町字市中三番より出火。321 戸が焼ける。	
明治 45 年 大正元年 (1912 年)		○明治天皇没、大正と改元する。
大正 2 年 (1914 年)	○暴風雨により坂下町では宮川・只見川が洪水となり、浸水家屋 605 戸、床下 218 戸、焼失家屋 3 戸。宮川の堤防も決壊する。	
大正 3 年 (1914 年)	○大雨で宮川の堤防が決壊する。浸水家屋 500 戸、田畑流失埋没の被害となる。	○岩越鉄道(現磐越西線)が全線開通する。 ○猪苗代発電所が完成する。 ○第一次世界大戦が起こる。
大正 4 年 (1915 年)	○私立坂下講学堂が廃止される。 ○塔寺村恵隆寺の木造千手観音立像が国宝(現国重文)に指定される。	
大正 6 年 (1917 年)	○広瀬村に綿織物工場ができる。	
大正 7 年 (1918 年)	○坂下町で米騒動が起こる。	○シベリア出兵。 ○富山県で米騒動が起き、全国へ拡大する。
大正 9 年 (1920 年)	○川西村調合寺(上宇内薬師堂)の本尊木造薬師如来坐像が国宝(現国重文)に指定される。	
大正 10 年 (1921 年)	○広瀬村にさらに綿織物工場が増える。	
大正 12 年 (1923 年)	○八幡村が誕生する。	○関東大震災が起こる。
大正 13 年 (1924 年)	○坂下町に初めて水道が引かれる。	
大正 15 年 昭和元年 (1926 年)	○会津線(現只見線)が会津若松駅―会津坂下駅まで開通する。 これにより会津坂下駅ができる。	○大正天皇没。昭和と改元。
昭和 2 年 (1927 年)	○大雨で湯川、阿賀川、鶴沼川の各川が出水する。坂下町は床下浸水 300 戸、水田埋没 10 町歩、橋流失 3ヶ所の大被害となる。	
昭和 3 年 (1928 年)	○会津線(現只見線)に塔寺駅・坂本駅ができる。	○会津線(現只見線)が会津坂下駅―会津柳津駅まで開通する。
昭和 4 年 (1929 年)	○心清水八幡神社の塔寺八幡宮長帳が国宝(現国重文)に指定される。	
昭和 5 年 (1930 年)	○広瀬村青木一堂島村大沢へ会青橋(船橋)が完成する。	

年号	会津坂下町のおもなできごと	日本や会津の主なできごと
昭和9年 (1934年)	○会津線(現只見線)に若宮駅ができる。	○会津線(現会津鉄道)会津若松—会津田島間が開通する。
昭和13年 (1938年)		○喜多方—熱塩を結ぶ日中線が開通する。
昭和16年 (1941年)		○太平洋戦争がはじまる。 ○会津線(現只見線)が会津宮下駅までのびる。
昭和19年 (1944年)	○坂下保健所(のちの会津保健福祉事務所会津坂下支所)が開所する。	○学童集団疎開が東京から猪苗代・若松・坂下など会津地域へ来る。
昭和20年 (1945年)	○坂下町は坂下高等女学校校舎の一部を仙台陸軍幼年学校に貸付使用とする。	○広島・長崎に原子爆弾が落とされる。 ○太平洋戦争が終わる。
昭和23年 (1948年)	○市町村農業会は解散し、農業協同組合に改める。 ○若宮公民館が開設される。	○新制高等学校発足。
昭和24年 (1949年)	○金上、広瀬、川西、八幡の各地区に公民館が開設される。	
昭和25年 (1950年)	○坂下公民館が開設される	
昭和26年 (1951年)	○牛川堰普通水利組合は牛川新掘土地改良区に組織変更する(現在は会津宮川土地改良区)。 ○栗村堰普通水利組合は栗村土地改良区に組織変更する。 ○坂下町に保育所ができる。	○サンフランシスコ講和会議で対日平和条約・日米安全保障条約調印。
昭和28年 (1953年)	○片門・柳津・沼沢沼・宮下発電所合同竣工式を実施する。 ○心清水八幡神社の鉄鉢が県重要文化財に指定される。	○会津線(現会津鉄道)荒海—会津滝ノ原(現会津高原)間が開通する。 ○テレビの本放送が始まる。 ○会津まつりが始まる。
昭和29年 (1954年)	○坂下警察署が会津坂下警察署と名称をかえる。 ○福島県立会津農業高等学校より通常課程普通科を分離して福島県立坂下高等学校が開校する。 ○高寺村・片門村・東松村が合併して高寺村となる。	○喜多方町が喜多方市になる。
昭和30年 (1955年)	○坂下町・若宮村・金上村・広瀬村・川西村・八幡村の1町5か村が合併して会津坂下町となる。高寺村は、耶麻郡高郷村(現喜多方市高郷町)に編入される。 ○町長選挙が行われる。 ○会津坂下町立坂下幼稚園が開園する。 ○福島県立坂下高等学校が、福島県立会津農林高等学校から移転する。 ○高寺公民館が開設される。	○柳津町・会津高田町など6町3村が誕生する。 ○若松市が会津若松市になる。
昭和31年 (1956年)	○第1回町議会議員選挙が行われる。 ○豪雨により坂下・若宮地区に大きな被害がある。 ○初市の俵引きが復活する。	○会津地方に大水害が起こる。(被害34億円)
昭和32年 (1957年)	○町営住宅の建設が始まる。 ○第1回町民体育祭が開かれる。 ○第1回町産業文化祭が開かれる。	○湯川村が誕生する。
昭和33年 (1958年)	○坂下第一中学校が開校する。 ○坂下厚生病院が開院する。 ○広瀬・川西地区が水害により大きな被害を受ける。	
昭和34年 (1959年)	○若宮・金上・広瀬・川西・八幡の各地区に町立幼稚園が開園する。 ○町内大通りにネオンアーチができる。 ○心清水八幡神社の鰐口が国重要文化財に指定される。	○田子倉発電所が送電を始める。 ○磐梯吾妻スカイラインが開通する。
昭和35年 (1960年)	○高郷村(現喜多方市高郷町)高寺地区が会津坂下町に編入される。	○背火山にNHKテレビ中継局ができる。 ○カラーテレビ放送が始まる。
昭和36年 (1961年)	○町役場庁舎が改築される。 ○坂下第二中学校が開校する。 ○町立片門幼稚園が開園する。	

年号	会津坂下町のおもなできごと	日本や会津の主なできごと
昭和37年 (1962年)	<ul style="list-style-type: none"> ○片門地区重門治原開田事業に着手する。 ○上宇内薬師堂の古絵馬が県重要有形民俗文化財に指定される。 	<ul style="list-style-type: none"> ○奥只見ダムが完成する。 ○三森トンネルが開通する。
昭和38年 (1963年)	<ul style="list-style-type: none"> ○西部広域簡易水道事業が着工する。 ○記録的な豪雪により自衛隊を要請する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○会津線（現只見線）会津若松―只見間が開通する。 ○新潟水保病が発生する。
昭和39年 (1964年)	<ul style="list-style-type: none"> ○北裏バイパス（現国道49号線）が開通する。 ○新潟地震がおきる。町の被害総額は1億8,000万円となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○新潟地震が起こる。 ○鶴ヶ城天守閣の再建工事が始まる。 ○東京オリンピックが開催される。
昭和40年 (1965年)	<ul style="list-style-type: none"> ○町章が制定される。 ○町消防団に常備消防部ができる。 ○西部広域簡易水道が完成する。 ○農協が合併（若宮・金上・川西・八幡・高寺）し、会津坂下町農協ができる。 ○大雨で各川が決壊、氾濫する。住家床下浸水400戸の被害となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○鶴ヶ城再建工事が完了する。
昭和41年 (1966年)	<ul style="list-style-type: none"> ○北裏バイパスが舗装開通する。 ○坂下電報電話局が自動化となる。 ○塔寺立木観音境内に春日八郎の「別れの一本杉」歌碑を建立する。 ○青木区正徳寺の絹本著色十六善神像、茶屋町光照寺の絹本著色光明本尊が県重要文化財（絵画）に指定される。中政所区定徳寺の木造薬師如来坐像が県重要文化財（彫刻）に指定される。 	
昭和42年 (1967年)	<ul style="list-style-type: none"> ○会津坂下町民体育館が完成する。 ○喜多方市、会津坂下町ほか2町2か村による清掃センター業務が始まる。 ○天屋東松群が県天然記念物に指定される。 	<ul style="list-style-type: none"> ○磐越西線郡山―喜多方間の電化が完成する。
昭和43年 (1968年)	<ul style="list-style-type: none"> ○国道49号線七折峠（現旧国道）が舗装改良され開通する。 ○旧五十嵐家住宅が県重要文化財に指定される。 	
昭和44年 (1969年)	<ul style="list-style-type: none"> ○集中豪雨で高寺地区に被害がある。被害総額1億2,300万円となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○国道49号線藤トンネルが開通する。
昭和45年 (1970年)	<ul style="list-style-type: none"> ○学校給食センターが新築される。 ○上水道第三次拡張事業が始まる。 ○中央公民館が開設される。 	
昭和46年 (1971年)	<ul style="list-style-type: none"> ○旧五十嵐家住宅が国重要文化財に指定される。 	<ul style="list-style-type: none"> ○会津線と只見線が統合し、只見線が全線開通
昭和47年 (1972年)	<ul style="list-style-type: none"> ○会津若松地方広域市町村圏整備組合がスタートする。 ○常備消防部が広域消防所坂下出張所となる。 ○西部水道第二次拡張事業が始まる。 ○上開津橋が開通する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○沖縄が日本に返還される。 ○札幌冬季オリンピックが開催される。
昭和48年 (1973年)	<ul style="list-style-type: none"> ○会津坂下税務署が若松税務署に統合し廃止される。 ○蒸気機関車が坂下小学校（現坂下南小学校）に保存展示される。 	<ul style="list-style-type: none"> ○西吾妻スカイバレーが開通する。 ○国道252号が全線開通する。
昭和49年 (1974年)	<ul style="list-style-type: none"> ○会津農業センターが開設される。 ○会津坂下町老人福祉センターがオープンする。 ○会津坂下町農協と広瀬農協が合併する。 ○第一回歩行者天国を実施する。 ○緑町公園が完成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○猪苗代で国体スキー競技会が開催される。 ○只見線でSL最後の運転がされる。
昭和50年 (1975年)	<ul style="list-style-type: none"> ○会津坂下町農協会館（現パストラルホール BANGE）が完成する。 ○商工会館が完成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○母成グリーンラインが開通する。 ○野口英世誕生100年祭。
昭和51年 (1976年)	<ul style="list-style-type: none"> ○町営スキー場がオープンする。 ○亀ヶ森・鎮守森古墳が国の指定史跡となる。 ○防雪会津坂下サブセンターが完成する。 ○諏訪公園が完成する。 	

年号	会津坂下町のおもなできごと	日本や会津の主なできごと
昭和52年 (1977年)	<ul style="list-style-type: none"> ○薄新六・齋藤清が名誉町民となる。 ○第一回町民スキー大会が開かれる。 ○桜ヶ丘公園が完成する。 ○富川加水土地改良区が阿賀川土地改良区と名称変更をする。 ○広域消防会津坂下出張所が広域消防会津坂下分署となる。 	
昭和53年 (1978年)	<ul style="list-style-type: none"> ○学校給食で米飯給食を実施する。 ○津尻・真木バイパスが開通する。 ○中央公園が完成する。 ○広域消防会津坂下分署が会津坂下消防署となる。 	○宮城県沖地震が起こる。
昭和54年 (1979年)	<ul style="list-style-type: none"> ○稻荷塚公園が完成する。 ○『会津坂下町史』全3巻が完成する。 	
昭和55年 (1980年)	<ul style="list-style-type: none"> ○袋原大橋が開通する。 ○塔寺バイパスが開通する。 ○高寺運動場が完成する。 ○牛沢公園が完成する。 ○町営スキー場の全施設が完成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○会津地方に豪雪。 ○冷夏で稲作に大被害。 ○国道121号線山王トンネルが開通する。
昭和56年 (1981年)	<ul style="list-style-type: none"> ○会津坂下町民歌・会津坂下音頭が完成する。 ○福島県会津少年自然の家（現会津自然の家）が開所する。 ○春日八郎・小林五浪が名誉町民となる。 ○会津坂下町老人生きがいセンターが完成する。 	○会津宮川地区国営かんがい排水事業に着工する。
昭和57年 (1982年)	<ul style="list-style-type: none"> ○夏祭に「二万人の流し踊り」が登場する。 ○福祉電話を設置する。 ○高橋藤園が名誉町民となる。 ○会津坂下町農業協同組合が会津坂下農業協同組合となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○駒止トンネルが開通する。 ○東北・上越新幹線の一部が開通する。
昭和58年 (1983年)	<ul style="list-style-type: none"> ○県道会津坂下一塩川線の立川橋が開通する。 ○塔寺いこいの森が完成する。 ○会津坂下警察署がバイパスに新築移転する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○喜多方プラザがオープンする。 ○東京ディズニーランドが開業する。
昭和59年 (1984年)	<ul style="list-style-type: none"> ○坂本工業団地の第一期が完成する。 ○高寺公民館「婦人の家」が完成する。 ○塔寺山いこいの森が完成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日中線がなくなる。 ○野岩線の呼称を会津鬼怒川線と決定する。
昭和60年 (1985年)	○町民憲章と町の花（菊）、木（桜）、鳥（うぐいす）が決定する。	○会津大橋が開通する。
昭和61年 (1986年)	○坂下郵便局が新築移転する。	<ul style="list-style-type: none"> ○会津鬼怒川線が開通する。 ○福島県立博物館が開館する。
昭和62年 (1987年)		<ul style="list-style-type: none"> ○大川ダムが完成する。 ○国鉄がJRとなる。
昭和63年 (1988年)	<ul style="list-style-type: none"> ○会津坂下町中央・坂下公民館（現会津坂下町中央公民館）が完成する。 ○鶴沼緑地公園が完成する。 	○本郷大橋が開通する。
昭和64年 平成元年 (1989年)	○花ちゃん公園を建設する。	<ul style="list-style-type: none"> ○昭和天皇没、平成と改元される。 ○土湯トンネルが開通する。 ○国道49号線中山トンネルが開通する。
平成2年 (1990年)	<ul style="list-style-type: none"> ○会津坂下町健康管理センターを建設する。 ○星扶が名誉町民になる。 ○坂下一東原線が開通する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○会津鉄道電化完成し、東京浅草へ直行運行となる。 ○馬越じょう水場が完成する。
平成3年 (1991年)	○ばんげひがし公園内に鶴沼球場を建設する。	<ul style="list-style-type: none"> ○磐越自動車道磐梯熱海一猪苗代間が開通する。 ○東北新幹線が東京駅に乗り入れをする。

年号	会津坂下町のおもなできごと	日本や会津の主なできごと
平成4年 (1992年)	<ul style="list-style-type: none"> ○ステーションばんげ南公園を建設する。 ○ふるさと創生事業の一環として海外派遣事業が始まる。 ○船窪区に故春日八郎の「別れの一本杉」歌碑を建立する。 ○磐越自動車道猪苗代一会津若松一会津坂下間が開通する。 ○カントリーエレベーターが完成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○喜多方一米沢間大峠トンネルが開通する。 ○月1回の学校週5日制が始まる。
平成5年 (1993年)	<ul style="list-style-type: none"> ○公共下水道の一部供用が始まる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○県立会津大学が開学する。 ○福島空港が開設される。
平成6年 (1994年)	<ul style="list-style-type: none"> ○湯トピアばんげ（現系桜里の湯ばんげ）がオープンする。 ○ばんげひがし公園町民プールがオープンする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○会津若松市に会津風雅堂が開館する。
平成7年 (1995年)	<ul style="list-style-type: none"> ○春日八郎記念公園・おもいで館が完成する。 ○国民体育大会秋季大会デモンストレーション行事の綱引き競技が開催される。 	<ul style="list-style-type: none"> ○第50回国民体育大会（ふくしま国体）が開かれる。 ○阪神・淡路大震災が起こる。 ○月2回の学校週5日制が始まる。
平成8年 (1996年)	<ul style="list-style-type: none"> ○農村環境改善センターが完成する。 ○安兵衛通りが開通する。 ○磐越自動車道の会津坂下一西会津間が開通する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○勝常寺の薬師三尊が国宝に指定される。
平成9年 (1997年)	<ul style="list-style-type: none"> ○中央公民館図書館にパソコンが設置される。 ○ばんげひがし公園の多目的広場遊具が完成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○磐越自動車道が全線開通する。
平成10年 (1998年)	<ul style="list-style-type: none"> ○森北古墳群発掘調査により前方後方墳から東北初の銅鏡が発見される。 ○河沼郡と大沼郡の9農協が合併し会津みどり農業協同組合（JA 会津みどり）となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○長野冬季オリンピックが開催される。
平成11年 (1999年)		<ul style="list-style-type: none"> ○会津若松市で地域文化サミットが開催される。
平成12年 (2000年)	<ul style="list-style-type: none"> ○大堀勉が名誉町民になる。 ○町内の全小学校にパソコン整備が完了する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○九州・沖縄サミットが開催される。
平成13年 (2001年)	<ul style="list-style-type: none"> ○記録的な豪雪となる。 ○五浪美術記念館がオープンする。 ○中平遺跡で東北初の平地式住居跡が発見される。 ○長井前ノ山古墳から県内初の合掌形石室が発見される。 ○「町のイメージキャラクター」バンビができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○うつくしま未来博が開催される。
平成14年 (2002年)	<ul style="list-style-type: none"> ○森北1号古墳出土遺物が県重要文化財に指定される。 ○国道49号線坂本バイパス（七折峠トンネル）が開通する。 ○坂下南幹線の牛沢街道－高田街道間が開通する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日韓共催のサッカーワールドカップが開催される。 ○完全学校週5日制が始まる。
平成15年 (2003年)	<ul style="list-style-type: none"> ○会津坂下町まちづくり基本条例を施行する。 ○「スポーツイベント全国チャレンジデー」に初参加する。 ○ふれあいプラザばんげがオープンする。 ○名誉町民の故春日八郎のブロンズ像除幕式がJR会津坂下駅前でされる。 ○会津坂下町・柳津町・三島町・金山町・昭和村の両沼5町村合併検討協議会が発足する 	<ul style="list-style-type: none"> ○住民基本台帳ネットワークが本格稼働する。 ○十勝沖地震が起こる。 ○新宮川ダムが完成する。
平成16年 (2004年)	<ul style="list-style-type: none"> ○両沼5町村合併協議会が設置される（同年破綻）。 ○自主公民館がスタートし、生涯学習推進員が配属される。 ○ばんげファミリーサポートセンターがオープンする。 ○公共下水道東処理区の一部供用を開始する。 ○坂下東浄化センター通水式を行う。 ○「2004 ふくしまふるさとCM大賞」で大賞を受賞する。 ○大雨により住居26世帯、非住居8ヶ所が床下浸水する。樋渡・水島区に避難勧告が出される。 	<ul style="list-style-type: none"> ○新潟県中越地震が起こる。 ○北会津村が会津若松市に編入される。

年号	会津坂下町のおもなできごと	日本や会津の主なできごと
平成17年 (2005年)	<ul style="list-style-type: none"> ○資源ごみのプラスチック回収を開始する。 ○第7回全日本ジュニア綱引き選手権大会中高生部門(ユース480キロ以下)で若宮スピリッツが優勝する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○会津高田町、会津本郷町、新鶴村が合併して会津美里町となる。 ○河東町が会津若松市に編入される。
平成18年 (2006年)	<ul style="list-style-type: none"> ○見明山町営スキー場の営業を休止する。 ○町指定可燃ごみ袋と不燃ごみ袋が新しくなる。 ○坂下南幹線が全線開通する。 ○都市計画道路坂下南幹線が全線開通する。 ○農業集落排水陣が峯城浄化センターの通水を開始する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○喜多方市、塩川町、山都町、高郷村、熱塩加納村が合併して喜多方市となる。 ○田島町、伊南村、館岩村、南郷村が合併して南会津町となる。 ○「会津ナンバー」がスタートする。
平成19年 (2007年)	<ul style="list-style-type: none"> ○農地・水・環境保全向上対策事業を開始する。 ○陣が峯城跡が国史跡に指定される。 ○小学生までの医療費が無料化される。 	<ul style="list-style-type: none"> ○郵政民営化。 ○新潟県中越沖地震が起こる。
平成20年 (2008年)	<ul style="list-style-type: none"> ○川西・八幡・片門小学校および幼稚園を坂下小学校・坂下幼稚園に統合する。 ○早乙女踊りが会津農林高校生徒と地域の人達により復活する。 ○資源ごみとして紙パック・てんぶら廃食油の収集を開始する。 ○町道中村線が開通する。 	
平成21年 (2009年)	<ul style="list-style-type: none"> ○医療費無料化が中学3年生まで拡大される。 ○会津保健福祉事務所会津坂下支所が会津保健福祉事務所(本所)に統合される。 	
平成22年 (2010年)	<ul style="list-style-type: none"> ○史跡陣が峯城跡から出土した遺物約400点が、県重要文化財に指定される。 ○家庭系ごみの有料化を開始する。 ○川西公民館が旧川西小学校へ移転する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○東北新幹線が全線開通する。
平成23年 (2011年)	<ul style="list-style-type: none"> ○東日本大震災の発生によって、町内では家屋・土蔵など全壊・半壊等170件以上多大な被害がでる。 ○町内に被災地の葛尾村、南相馬市等から川西公民館、農業改善センター、会津自然の家、一般家庭などへ約1000名が避難する。 ○只見川水系が大洪水となる。町内では、片門・舟渡・和泉・平井で避難勧告が出される。 ○学校給食センターを移転・改築する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○東日本大震災が発生する。地震、津波および福島第一原子力発電所から放射性物質が放出される。 ○洪水により只見線会津坂下駅一小出駅(新潟県)が不通となる。
平成24年 (2012年)	<ul style="list-style-type: none"> ○坂下第一中学校・第二中学校を統合し、坂下中学校が開校する。 ○大雨により樋渡区に避難勧告が出される。 	<ul style="list-style-type: none"> ○北太平洋上を中心に金環日食が観測される。 ○東京スカイツリーが開業する。 ○只見線只見駅-大白川駅(新潟県)の運転を再開する。不通区間の会津只見駅-会津川口駅は代行バスの運行が続けられる。
平成25年 (2013年)	<ul style="list-style-type: none"> ○坂下小学校の一部・若宮小学校および坂下幼稚園の一部・若宮幼稚園を統合し坂下南小学校・坂下南幼稚園が開校・開園する。 ○坂下小学校の一部・金上・広瀬小学校および坂下幼稚園の一部・金上・広瀬幼稚園を統合し、坂下東小学校・坂下東幼稚園が開校・開園する。 ○各地区公民館がコミュニティセンターになる。 ○国道49号線-高田街道入口間の坂下羽林線が開通する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○福島県の子育て支援策により18歳以下の県民の医療費が無料化になる。 ○富士山が世界遺産に登録される。 ○「和食」が世界無形文化遺産に登録される。
平成26年 (2014年)	<ul style="list-style-type: none"> ○「道の駅あいつ 湯川・会津坂下」がオープンする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○長野県・岐阜県にまたがる御嶽山が噴火。57人の死者をだした。

おもな見学しせつ

平成27年現在

	施設名	住所等	電話番号
1	会津坂下町役場	会津坂下町字市中三番甲 3662	84-1503
2	会津坂下町中央公民館	会津坂下町字五反田 1310-3	83-3010
3	町民体育館	会津坂下町字石田甲 650	83-3010
4	ばんげひがし公園	会津坂下町大字福原字殿田 34 鶴沼球場、町民プール併設。	83-3755
5	会津坂下町立学校給食センター	会津坂下町大字大上字柳ノ下甲 312	83-3620
6	会津坂下町浄水場	会津坂下町字上窪道北乙 53-1	84-1530
7	糸桜里の湯ばんげ	会津坂下町大字見明字堤場 2115	83-1151
8	(社)会津坂下町観光物産協会	会津坂下町字市中二番甲 3650	83-2111
9	会津坂下町五浪美術記念館	会津坂下町字台ノ下 842	84-1233
10	春日八郎記念公園・おもいで館	会津坂下町大字船杉字村中甲 554	82-4254
11	会津坂下警察署	会津坂下町字館ノ下 311	83-3451
12	会津坂下消防署	会津坂下町字館ノ下 111-1	83-4100
13	坂下厚生総合病院	会津坂下町字逆水 50	83-3511
14	介護老人保健施設 なごみ	会津坂下町字逆水 50	83-7530
15	特別養護老人ホーム会津寿楽荘	会津坂下町大字塔寺字北原 645	83-0185
16	会津乗合自動車(株) 坂下営業所	会津坂下町字大道 2408	83-0979
17	JR 会津坂下駅	会津坂下町字五反田 1270	82-3972
18	会津よつば農業協同組合	会津坂下町字東南町裏甲 3985-1	83-2424
19	COOP BESTA ばんげ	会津坂下町字館ノ下 218	83-1391
20	リオン・ドール坂下店	会津坂下町字館ノ下 18	83-5111
21	会津中央乳業(株)	会津坂下町大字金上字辰巳 19-1	83-2324
22	太郎庵(本社工場)	会津坂下町字福原前 4108-1	83-3267
23	会津若松地方広域市町村圏整備組合 環境センター	会津若松市神指町大字南四合字深川西 292-2	27-9004
24	会津若松地方広域市町村圏整備組合 用水供給課	会津美里町大字穂馬字宮ノ上乙 1010	56-4192
25	福島県農業総合センター会津地域研究所	会津坂下町大字見明字南原 881	82-4411
26	国土交通省 北陸地方整備局 阿賀川河川事務所大川ダム管理支所	会津若松市大戸町大字大川字李平乙 121	92-2839
27	道の駅あいづ 湯川・会津坂下	湯川村大字佐野目字五丁ノ目 78-1	(0241) 27-8853

編集にたずさわった人々

○監	修	会津坂下町教育委員会教育長	佐藤	玄
○企画・立案	前	同	堀	幸一郎
○校	閱	会津坂下町立若宮小学校長	松原	実
		同	大沼	辰雄
		同	山口	健
				廣瀬小学校長

○編集・執筆委員

委員長	会津坂下町立坂下小学校長	滝沢	玲子
前委員長	同	五十嵐	長孝
副委員長	会津坂下町立坂下小学校教頭	長澤	健治
委員	同	久保田	義春
委員	同	佐藤	美智枝
委員	同	渡部	寿之
委員	同	田中	英人
委員	同	浅川	富美子
委員	同	横田	恵一
委員	元同	岩橋	恵子
			坂下小学校教諭

○人物イラスト・絵	イラストレーター	やないふみえ
		(会津坂下町出身)

○事務局	会津坂下町教育委員会教育部長	山内	茂夫
	前同	日下	亮
	同	大堀	一仁
	同	五十嵐	隆裕
	同	高畑	吉一
	前同	佐藤	暢一郎
	同	長尾	修
	同	園城	泉
	同	酒井	彰子
	前同	齋藤	哲子
			教育部文化振興班長
			教育総務班学校教育担当
			文化振興班町史編さん担当
			専門員
			主任調査員
			調査員

本書を編集するにあたり、町内の各官公署・事業所をはじめ、数多くの方々からたくさんの資料を提供していただきましたことをお知らせいたしますと共に、厚くお礼申し上げます。

発行者	福島県河沼郡会津坂下町教育委員会
発行年月日	平成24年10月31日
改定	平成28年3月31日
印刷	福島県河沼郡会津坂下町字市一番甲3535 有限会社スズキ印刷



小学校		年	組
名前			